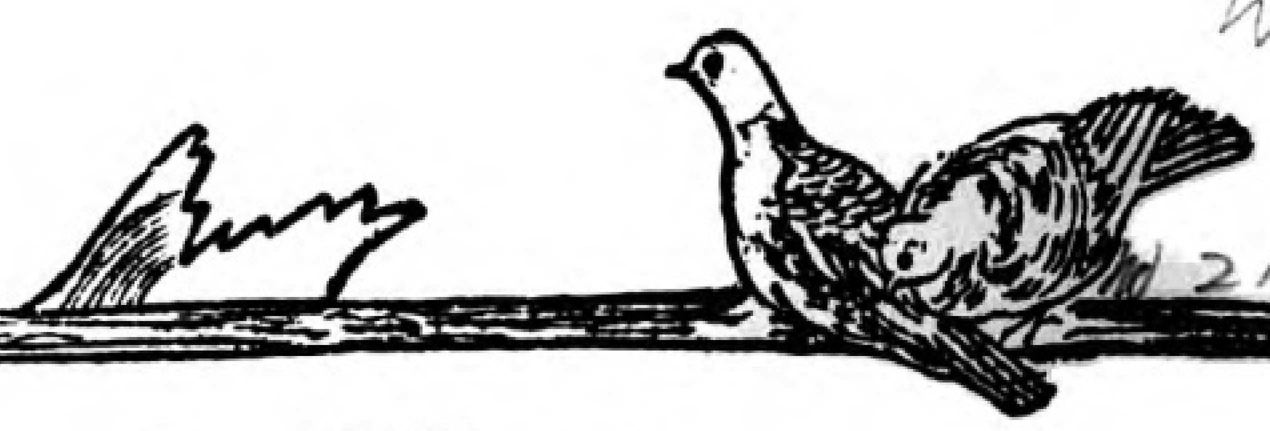
WASON
HQ



# 女學雜誌

第二百十四號目次

社說　教育者、信徒、廢娼論者に告ぐ○今の德育主義○天下を讓らん
論說　女子簿記學を學ぶの必要（村木經策）○狂歌の粋（星野愼）
批評　日本文學全書を讀む○三評論○十一新聞○國文學讀本
雜錄　家庭の風色（千松閣女史）○無用の事には拙なけれ○希臘人の躰育○モッス夫人の演說○其男を叩き殺せり○門出○一席夜話（長者の心得）○きよめぬ庭○家の手わざ○近藤賢三君四回忌
小說　うき世
寄書　養鷄に就て○すみれ草○小品文
開書　貧民を助けよと祈る○交詢
時事　築地救助會○政海風針○改進せよ○山林必しも靜雅ならず○群集に於ける西洋人○多望快好○樹を植ゆ、人を植ゆ○廢娼記事
女報　印刷局の女工○婦人の慈善○横濱婦人慈善會○女生徒上京○女傑傳○女小說家○メッド夫人○アッケルマン孃○カルチス夫人

"Jesus himself in his life and in his teachings, constantly opposed the imitation of external perfection."—Froebel.

女學生　第一號發兌

近藤賢三君肖像

女學生　一册五錢半

五月廿四日發兌　第二百十四號　一册定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# The Woman's Magazine.

**(JOGAKU ZASSHI.)**

No. 214. 24th, May, 1890.

第二百十三號目次


EDITORIAL :—A Word to the Three Great Conference (Educational, Christian, and Anti-prostitutional.) The Moral System Coming into Vogue. The Late Revolution, in Politics.

LEADING ARTICLES :—Short-hand-writing a Study for Girls. Popular Poetry.

CRITICAL NOTES :—Japanese Literature. The Three "Reviews." The Eleven Newspapers. Classical Readers.

MISCELLANEOUS :—Variety in Homes. Be rather Clumsy in Unimportant Matters. Physical Culture in Greece. Mrs. Morri's Speech. "They Killed Him." The Departure. The Old Man's Talk, etc.

NOVEL.

OPEN LETTERS :—A Plee for the Poor.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

社説　男女青年論(天高く地登らず)

論説　色このめ〳〵(鈴木弘恭)

批評　勝閧○田口夘吉君○言語○詩人ブラウニング

雜錄　高等女學校女教師プリンス孃○ブラウニング終末の詩○羽織を着換たり(千松閣女史)○ラージ夫人の謝狀○一席夜話(賴みになるさ云ふと)○七人以上子女を擧げし者○德島縣知事櫻非勉君夫人高田八重子君の傳○弔詞(スピンナル氏)○和歌の浦波(池袋淸風)○家の手わざ○南京米の炊き樣○五感のはたらき

小説　野邊遊び

寄書　女學生出校して後……(國尾あい)○なさけあれや○咄々怪事(木山金太郎)○谷小河(上田鴻山)

開書　友人が慈善の行に感じて我同胞兄弟姉妹に告ぐ(一敬山樵)○질詢

時事　輿論囂々○少女賊に說教す○小刀改革家○極慘の出來事○キングスダウター○廢娼記事○通信

女報　禁酒同盟會○淸水豐女史○女子傳道學校○シスターマガレット女史○山形師範學校女子部○美人品評會○東京音樂學校○其他數件

## WOMEN IN JAPAN.

### TSUKIJI RELIEF SOCIETY.

*Owing to the great distress prevalent among the lower classes of Tokyo on account of the high price of food, many foreign sympathizers have felt the need of some organized effort for the relief of sufferers. It is known that Dr. Whitney has already founded an Association for the aid of jinrikisha men living in his neighborhood, and a number of the residents of Tsukiji interested in the subject met him on the ninth of April, at No. 5 B Tsukiji, to consult with him as to the best method of organizing another Relief Society in Kyobashiku. After due discussion, the matter was left in the hands of the ladies present, who appointed a Committee consisting of three members, namely, Miss Verbeck, Miss Fannie Perry, and Mrs. Swartz, and the following course of action has since been resolved upon : 1st, That a reliable Japanese Evangelist be appointed to visit the poorer quarters of Kyobashiku, and report needy cases to the Committee. 2nd, That measures be taken for the relief of those in distress, provision being made not only for their physical welfare but also for their spiritual enlightenment. 3rd, That other Japanese Christian men and Bible-women be also requested to visit among the families whose cases have been reported. 4th, That Kyobashiku be the first field of operation, but, if found feasible, the work be extended over the neighboring districts. 5th, That Dr. Whitney's kind offer to admit to his Dispensary any who may be found to be in need of medical attention, be accepted until some similar arrangement can be started in Tsukiji. 6th, That whenever it may be found advisable, the committee call a general meeting of all interested in this undertaking to report on the progress of the work, or to discuss new business.*

*All those who are interested in the object of this Society, and desire to share in the work, are requested to send their contribution to the Treasurer, Mrs. H. W. Swartz, No. 15 A Tsukiji.*

*Since holding the above meeting, a suitable man has been found, who began his work May 1st. Another meeting of ladies will be held on Tuesday, May 20th, at 4 P. M., at the house of Mrs. H. W. Swartz, 15 Tsukiji, to form a permanent organization, when a report of the work done will be given. It is hoped that all the ladies of Tsukiji will be present at this meeting, and interested in this important undertaking.*

*N. B. The Society will not limit its work to the jinrikisha class, but hereafter purposes to relieve other pressing cases in the vicinity of Tsukiji.*

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百十四號　明治二十三年五月廿四日發兌

# 社說

## 教育者、信徒、廢娼論者に告ぐ

明治二十三年は會合の歳なる哉、今や府下上野に大ひなる會合あり、內國大博覽會と稱す、國內珍重の品四方より集まり、相ひ一堂に來會して其優劣を競ふもの也。本年十一月は亦た大ひなる會合あらんとす、貴族院及び衆議院の會合即はち是れ也。

此等の大會合に連れて數多の稍や小さき大會合續々として起り來れり、吾人先づ事の近く女學に關するものに付きて其重なるものを云はんか、曩には矯風同盟會なるものあり、各地矯風上の諸會代人を派して東京に集まりたり、近くは禁酒同盟會なるものあり、各地に在る禁酒會亦た其代人を派して東京に會合したり、吾人此の兩同盟會の果して何等の功益を爲したるかを辨ぜず、何んとなれば如此き功益は總べて無形的に屬し、敢て統計表を掲げて明示するとを得る者にあらざるが故也。而して今や敎育者の大會なるものあり、基督敎徒の同盟會なるものあり、亦た日本全國廢娼同盟會と稱するものありて此等の三同盟會は今ま現に日々會合しつゝあるものにして、其代員悉とく府下に逗留せり、吾人此際一言を呈する所なくんばある可らず。

諸君何を見んとてわざ〳〵此府に參集しつる、風に蕩かさるゝ葦なるか、其は都には無し、爛熳として咲ける花なるか、そは既に嵐に散りて微塵を殘さず、左らば諸君の見んとする所ろ果して何物ぞ、あゝ諸君は何事をか望みて來りしなり、必らずや何物をか握りて其鄕關に歸らざる可らず。

夫れ今は敎育の時なり、啻に子弟の敎育すべきのみならず、國民の思想感想理想をも敎育せざる可らず、今の國民は先生を失へり、彼等は孔孟に歸せんか、佛に歸せんか、基督に歸せんか、果た哲學者に歸せんか、蓋は何れにても可なり、但だ未だ眞の生きたる孔孟佛基督及び大哲學者を見出さゞるなり、目を擧れば小人島の如し、万民たゞ營利に汲々として絶へて聖を以て任ずるものなし、漢學者は役に立たず、佛敎家は俗に塗みれ、基督敎家は品質熟せず、哲學家は活氣なし、夫れ何處にか師事せん、今の國民は敎を受けざるの頑兒に似たり、此儘にして生ひ立たば前途の危險それ幾干ぞや、此時に於ては實に大敎育者を要す、大先生を要す、一世を風靡し感

化八方に薫し、徳望日月の如く爛々たるものあるを要す、今時果して其の心掛だも存するものありや、細々として教授法を講ずるものは之れ有り、微々として管理法を研究するものは之れ有り、然れども管理教授の事たる決して器械的のものにあらず、幾百巻の講釋を爲すとも其人物なくんば無益なり、今時果して如此き人物ありや、よし其人物なしとするも敢て其の人物たらんとを心掛る熱心の人ありや、吾人屢ば教育者なるものに接し、其見識の陋小なるに歎ぜずんばあらず、彼等は未だ其責任の重大なるとを知らざる也、否な之を知るとも能く堂々として現に其の如くに自許自任すると能はざる也、教育者すでに如此くんばそれ今の日本を何如に教育すべきや、嗚呼今は教育の時なり、何んぞ眞誠高大の教育者絶無なる。

亦た今は救ひの日なり、聞け、方今何の處ろにか基督教の傳道を妨害するものある、政治界は叫べり熱心なる信徒の政治家を要すと、事業界は叫べり正忠なる信徒の事業家を要すと、教育界は叫べり博愛なる信徒の教育家を要すと、而して未だ其人起たざる也、傳道師は馬太傳の講釋を爲し、涙をコボシて祈禱すれば則はち日本は乍まち天國になると思ふか、又基督教の青年は、禮式に慣れ英語に熟し交際法を覺ゆれば方今の盤根錯節を利斷し得べしと爲す乎、見よ目下の必要は絶叫連呼して諸君の冷澹を天に訴ふる也、十數年前國裏尚ほ迫害の氣充滿するときには、傳道者の勇氣亦た勃々たりき、然るに今や日本國中到る所ろに傳道者を歡迎する時傳道者は反つて眠れり、諸君艱難の時には勇ありき、今や小康に安んじて長夜の夢を結ばんとす、諸君が天に於けるの罰決して小少にあらざるを信ず。

今は亦た廢娼の時なり、古人云く人生一瞬時の機あり、此時に於て奮ふと奮わざると其人の至大の幸不幸を判つと、邦國の大勢に於ける亦た之に均し、民情湧き醸し忽焉熟破して一轉せんとするの日あり、識者もし此日之を利導せずんば大勢すでに去つて亦た容易く反り來るとなけん、夫れ廢娼の時運は今正に中する也、數年前來志士は此日あらしめんが爲に樣々に苦心したり、或は廢妾論を主張し、或は一夫一婦の建白を爲し、或は賦金輕減の輿論を導き起せり、之を培養すると多年にして陽春一來則はち廢娼論となれり、今は正に廢娼すべきの日なり、此の好機に會して敢て逡巡するものあらば大道は其人を喚ふべし、邦家は其人を恨べし、今日もし廢娼論



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の勢力を勃大ならしめずんば、今后數年間社會淸德の議將に勢ほひを失なふこと多からんとす、志士決して其の手綱を緩るむ可らず。

而して教育者と基督信徒と廢娼論者とは、現に今ま此府下に大會合せり、諸君果して何事の打合せを爲し亦た何程の益を奏したる、田舍の人は府民よりも熱心なるもの也、彼書淸閑自適せる田野山林の內に居て時に都門の風聞を聞き、時に大家の論文を讀み、自ら覺悟すること尋常ならず、大ひに英氣を養ひて勃々万丈の氣焔あり、思へらく府に上り知名の士に接し更らに益する所ろあらんと、斯て上京して多日名聲を聞けるの人に接見すれば、何んぞ計らん此れ輕率浮薄の靑二才にして共に天下の大事を任ずるの人にあらず、則はち大に絕望して悒々鄕に歸るとは、之れ田舍の小英雄に就きて屢ば聞く所ろの實談なり、此度も亦た如斯きことあるべきか、吾々は之あらんことを悲しむと共に亦之あることを喜こぶ、何んとなれば田家の英雄はいよ〳〵之が爲に激し、更に大に興奮自立する所ろあるべしと信ずるがゆゑ也。

然れども大事は大會合にあらずんば爲すこと難し、苟くも天下を動かさんと欲すれば先づ天下の人を糾合せずんばある可らざる也、故に吾人は本年の如く色々の會合あることを喜こび、特に今日現に府下に參集するもの丶如き大會合あることを便とし、此の會合に於て必らずや當に得らるべき丈の利益を收め得んことを熱望して止むことなし。必らずしも有形的の議決を云ふにあらず、生氣全會合に貫ぬき、熱心全會員を一和し、惣て來會せるもの丶同精神になりて其事業に盡力せんとするもの氣象燃え立んことを祈る也、斯てペスタロッチの弟子の四方に趣くが如く、基督の使徒の万國に宣傳するが如く、同志同精神の友八方に散分するに至らんことを祈る也、斯あらば第何條と云ふ死せる箇條書の議決あらんよりも數百倍の益ある也。」

而して凡そ會合なるものをして此種の益あらしめんには、其會合の精神となるべきもののなくんばある可らず、所以る精神とは會場の世話を爲し、懇親會の周旋を爲し、各員にお世辭を言ひ、可成く出者張りて演說せんとするが如きものを云ふにあらず、其人何處に在るか、聞ゆることなく、其盡力何事なるか、見ゆることなく、沈々として衆目衆耳の外に逸し、而して全會員をして自づから其會合の目的に熱心燃ゆるが如くならしむるの人を云ふ也、如斯き人は、凡そ人を使はんとするものは先づ之れが僕とあるべし、「我は爾等の師また主ある

に尙ほ汝等の足を濯ふ」と云ふの大謙遜を活守し、一身を犧牲にし、其大丈夫たることを犧牲にし、人の靴を取り、人の足を洗ふの覺悟を以て見えざるの處に盡力する者即ち是れ也、若し會合に此種の人なかつせば其の會合は死せる會合となる也、會合せるものは皆な互ひに己れを廣告せんとし、己の地位を高く見せんとし、少しにても善き席と善き役に就かんとするが如きことあらば、其會合は何万人を集むるとも生命なき也、如此き會合に益ありと思ふ勿れ、路人の袖を振り合ふ方寧しろ情けあるべし、如此き會合は何等の活きたることをも爲し能ふことあるまじき也。

吾人は會合者が不平を吹いて歸るを送ることを願はず、魚骨三々、杯盤狼藉し、たゞ食ふて四方に散ずるの殺風景あらんことを願はず、若し會合せば必らずや其益あらんことを祈る、特に目下大切要の事件に對して東より西より南より北より會合し遂に何等の効能もなくして故國に歸らんには、寧しろ會合せざりし方其人に益あることとなるべし、蓋し田舍の人東京に來りて冷澹と云へることを見覺え、歸國、眞摯の情前に異なることあらんには遺恨何ものか之に及ばん、左れば吾人は今の大會合に望むこと甚れだ重大なるものなり。

## 今の德育主義

榎本文部大臣の德育主義は儒敎主義なりし由、而して之が爲に總理大臣と激論を生じたることある旨風聞す、內閣不折合の故に文部大臣止められたりとせば彼の德育主義の一事も亦た不折合の一原因たるべし、然らば新文部大臣の德育主義は決して榎本子に同じからざるを知る、たとひ之を同ふするも其の決して同ふして久しからざるを知る、芳川君何如なる人ぞ、佛敎家にもあらざる如し、基督敎家にもあらざる如し、哲學者にもあらざる如し、新文部大臣の德育主義果して何如ん、吾人頗ぶる疑ふ。

然れども只だ疑ふと云のみ、敢て聞たしと云にあらず、何んとなればシャフテスベリー侯にあらざるよりは、文部大臣一個の德育主義何如にあるかは今の德育界に左程の影響あらざるがゆゑ也、吾人此點に付きては文部大臣に重きを置かず、實に有力なる大先生の起らんことを待つ也、今や詭辯橫行す、正にソクラチースを要するの時也、功利論すでに長ぜり、正にバットレルを要するの時也、吾黨の士何處にある。




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

## 天下を讓らん

内閣連りに變動するなり、吾人は其何の必要によりて變動するかを知らず、左れど其の確かに變動したるとを見るなり、之よりして何如なる影響を來し、國民は幾干の益を受くべき乎、車屋は吾人に問ふて云く、年貢にても減ずべきか、老嫗は問ふて云く、米價にても下るべきか、家主は問ふて云く、屆向にても手輕になるべきかと、吾人は果して其の望みの如くなるや否やを知らず、然れども但だ確かに知る所のものは、樞密院議官の增すと、大臣種の增すと、入費の殖えたるとと是れ也。

堯、天下を以て許由に讓る、許由受けず、又子州支父に讓る、子州支父曰く、我を以て天子と爲す猶可ならん、然れども我適ま幽憂の病あり方に之を治めんとす、未だ天下を治むるに暇まあらざる也。　舜、天下を以て善卷に讓る、善卷曰く、余れ宇宙の中に立ち、冬日は皮毛を衣、夏日は葛絺を衣、春は耕種して形躰以て勞動するに足り、秋は收斂して身以て休食するに足る、日出で丶作し日入て息ひ、天地の間に逍遙して心意自得す、吾天下を以て何をか爲ん、悲しひかな夫子の余を知らざると。　夫れ天下を治むるの事素と樂事にあらず、人何を苦しみてか特更らに其難きを取らん、只だ一片誠忠の念、衷に止むと能はず敢て形骸安息を棄て丶邦家の爲に盡すあらんとを欲するのみ、われ元と之を要むるにあらず、天の命止むを得ざるがゆへ耳。

彼の權を貪ぼるものは何にの爲めぞ、日夜營々として苦慮す、たとへば商人の市に走り廻るとの如く、吝夫の遺せし金をさがすとの如く、但だ其欲する所ろのものを得んとを欲する也、彼等果して之を得たり、而して民幾干の益を蒙むる乎。　ブライト嘗て演じて云く、何如なるか是れ政治家としての大ひなる處ぞ、他なし汝ぢ避く可らざるの變革を行ふとき、或るものを激動し或るものを混雜し或る疑ふ所ろのものをして更に疑はしめざるを得ざるの改革を行ふとき、此時に當つて成るべき丈け世を騷かしめず、成るべき丈け人民の感じを動かさゞると即はち是れ政治家としての最長所也と。

日本人は内閣の變動毎に左して影響を蒙むるとなし、之れ今の政治家の大(グレート)なる處ろか。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## 論説

### 女子簿記學を學ぶの必要

客員　村木經策

簿記學は理財の要具なり、世務複雜百事頻繁を極むるの今日に於ては必ず此簿記學に依て財務を整理するの一助となさゞるべからざるは固より當然のことなり。夫れ財務を整理するは即ち一國を整ひ一家を理むる所以の道にして、財務を整理するは簿記學に因るなれば、人世諸般の幸福は實に其源を簿記學に發すと謂ふべし。而して此簿記學なるものは、帳簿上に於て出入を調定し、規式を嚴にし、秩序を正し、毛厘の小も忽にせず、必ず法度を謹守して以て財務を整理することを敎ふるものなり。故に簿記學に因て財務を整理するときは、外に在ては即ち日々に生ずる所の貸借賣買の取引に關する凡百の事務一目の下に瞭然として、自己資產の增減と彼我借貸の關係とを知るを得べく、内に在ては即ち日々の出納を更ため、家事の經費を調へ、自然奢侈を去りて儉約に就くに至るべし。斯くの如くなれば簿記學は能く社會の公益を圖り、上は一國より下は一家に至るまで、財務の紛亂を防衛し、財產の破損を保護するに極めて要用あることと固より言を待たず。簿記學を脩むるものは能く此理を會得し、簿記學の何物たるを知り以て家國の生產何に由て保護することを得べきや、社會の經費何に由て節理することを得べきや、又法度規式の何に由て嚴正ならしむることを得べきやを察すべきなり。今や我國外交日に開け、社會の財勢大に昔日の面目を改め、外國の貿易より國民相互の取引に至るまで、大に頻繁複雜を極むるに至り、隨て一家の生計上に至ても、大に影響を蒙り、亦昔日の如く單純的のものたるを得ざれば、一國一家に論なく、外事內政に論なく、能く此の繁雜なる理財世界を處理して、家國の生產を保護し、家國の富榮を來たさんには、簿記學に賴らざるべからず、實に簿記學は今日に在て一日も欠くべからざる必要のものなり。されば西洋簿記の學、餘の學術と共に一度我國に入り來りてより、日一日を逐ふて其の步を進め、學生の之れを學ぶもの日々に多きを加ふるは亦怪むに足らざるなり。然りと雖、我國古來簿記の術なきに非らず、大福帳あり、金錢出入帳あり、其他種々の帳簿ありて、商家由て以て已が商賣の事務を調査して、今日に至れり。而て今俄に此等古來の簿記法を捨てゝ、西洋式の簿記法を採用するもの何ぞや、抑も亦故あるなり。之を要するに、古來の簿記は、其法



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

學理に由らざるが故、規式自ら明確を欠き、且つ實際に於て大に不便にして、西洋式簿記の正確にして便利なるに如かざれば也。今我邦古來の簿記の欠點の一二を擧ぐれば第一に、營業主と商賣方との關係、主客自他の區分立たざると是れなり、故に日本の商家は、營業主一己の入費を以て、商賣方の入費となすもの丶如く、商賣方の雜費を以て營業主の雜費となすもの丶如く、而て營業主と商賣方との間の貸借の如きは置て問はず、西洋簿記の理に於ては決して斯の如き曖昧なるとを許さゞるなり、故に主客自他の區分判然し、商賣上の損益自ら明瞭正確にして、商賣の結果如何を明かに知るとを得るなり。又古來の簿記法は、借貸の意義明瞭ならず、爲めに帳簿に於て正確なる記入をなす能はず、曖昧糢糊の間に結算せざるべからざるに至るなり。加之帳簿の躰裁實に雜駁にして、各種の勘定を各別に調査するの便を欠くが如き、日々の取引の摸樣を一目の下に點撿するの便を欠くが如き、其他種々なる實際上の不便を感ずると一二にして足らず。以上陳述するが如き理由あるを以て、苟も簿記を以て出入を調査し、增減を撿覈して財務を整理せんと欲するものは、宜しく西洋簿記の學理上に基ける正確なるものを用ひざる可らざる也。

今日の社會は斯の如く頻繁なり、斯の如く複雜なり、財務の關係盛に開けて、簿記學益々必要となり、外事内政皆簿記の法に由らざれば、調定節理するを得ざるに至る、故に男子となく、女子となく、皆簿記學を修めざれば到底今日の社會を經理するを得ず。然るに男女の性質に就て論ずれは、男子は剛强にして女子は婉柔なり、女子は從順を以て美德とし男子は果斷を以て美才とす、其他生理上に於ても男女强弱の差異有り、故に女子は内政を掌りて、男子は外事に當るは天理自然の法なり。男女の兩性は斯く反對の地位に在にも係はらず、男子は須く内政を掌り女子は須く外事に當る可か、女子は柔順の性を以て外事に當れば充分の結果を得べきや、男子は剛强の性を以て内政を掌れば充分の結果を得べきや、蓋し男子は内政を掌るに適せずして、女子こそは眞に適當なるべし、女子は外事に當るに適せずして男子こそは眞に適當なるべし、若女子をして頻繁複雜の世に出て萬般紛雜の事業に當らしめば、其任に堪ざるのみならず必ず女子の美德を破り其特性を失ふに至るべし、又男子をして家政の業を執り子女養育の任に當らしめば、其任に適せざるのみならず必ず男子の剛德を破り其特性を失ふに至るべし、故に男子の剛德にあらざれば外事



Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

に當る能はず、女子の柔順にあらざれば内政を執る能はず、是男女の性質各異にして内政外事の分業行はるゝ所以なり。且つ此の剛柔内外の區分の外男女兩性著しき差あり、男子は自然疎放簡畧に失するの癖あるも、女子は周到綿密の性ありて、男子に比すれば百事慇懃細密にして、十に八九は過誤遺失なく、俗の謂ゆる後生大事とか又手の行き届くとか又念を入れて如才なき抔の如きは、女子の特性と云ふも不可なし此れ女子の婉柔と伴ふて相離れざる所の性質にして、蓋し婉柔の性は實躰にして周到綿密の性は現象なるが如し。既に婉柔なれば實際の事物に當りて幾分か弱點を生ぜざるを得ず、既に弱點を生ずれば其の事物を敬重して後生大事に謹み一點の過誤遺失あらんことを氣遣ひ、念に念を入れて微細の處にまで手を行き届かせ如才なきに至るは自然の勢なり。今や百事分業法行はれて、至便を尊ぶの世にして、頻繁複雜なる理財社會に至便なる處置を下さんには、男女分業法を行ひ、女子の周到綿密なる特性を利用して、以て男子を助るに在り、思ふに理財上簿記の一事に至ては最も女子の性質に適當するものにして、外事内政とも簿記を以て女子の專業とせば、理財上必ず大なる利益ならん、實に簿記學を修むるは女子に在て眞大必要のとなるべし。（未完）

## 狂歌の粋

客員　星野愼

狂歌滅びんとす將さに三寸の氣息絶へんとはするなり、人言へらく、和歌は高雅の風調にして狂歌は卑俗の風調なり、一は文想より溢るゝ花、一は俗談より溜りし塵と、知らざるも亦甚し、いかな人又言へり、狂歌は歌風を裝へる坐興の一洒落のみ、里耳に入るべき俗聲のみと、之れ未だ思はざるの言なり、雲峰子既に和歌の感情的なるを論定しぬ、予は又狂歌は意想的なりと言はんとす、和歌の長所は優美にありて雄大に缺く如く狂歌の長所は Ludicrous（譯字知らず）にして短所は優雅にありとす、和歌の卑俗なるもの狂歌にあらず、狂歌の高尚なるもの和歌にあらず、和歌を以て狂歌を非難するものは、抑ゝ共に談ずべからず、當代の歌人狂歌を冷視するもの多し、蓋し之れを詠ずるもの悲哀の感情人物にあらずして潑溂たる頓智者にのみあればなり、諷刺、嘲笑、冷評、滑稽的、洒落の潜力ありて、殊に俗耳に入るが故に妙なるなり、胸中洒々落々、思想快濶、能く泣き又從ふて能く笑ふの昔への歌人は、能くこれを用ひしなり、貫之は「實定ならず冠落せば」と詠じて非禮の罪を免かれ、家定は「姿によらぬ人は

心を」と述べて一時の赤面を言ひ紛らし、櫻井基佐は「和歌の道には達者あれども」と嘲笑ふて其伎倆を現はし一偏上人は「水鳥の水に入とてぬれもせず」と返へして紹巴を感ぜしめ又、一休か昻く一世に悟道を叫び出せし聲、曾呂里が巧みに大閤の喜怒を左右し、西行か滑稽に世人に吐きたるの舌、胸中自ら大流の横はるあるを見ん、狂歌の未だ進歩せざりしときは、全く冷笑的の一種の地口なりし、「將門は米かみよりぞ射られける」の如き之れならんか、土岐合戰に美濃の敗北せしとき、「ときはれどのりたちもせぬよの袴みのは破れてひどのにぞなる」と言ひしが如きは頗る巧みにして落首より遥か發達せしものなり、始めは地口的の照應句のみを考へ、漸々進んで「ハーモニー」（美調？整調？）生し來り專ら掛け言葉の妙味を挾むに注意せり、此盛時を天明の年代とす近時團珍調の如きは大に「ハーモニー」を損して寧ろ地口駄洒落に近し、狂歌の能く人を詼諧的に樂ましむる所は壯大中に一轉滑稽を生じ、些細の事情に雄大の語來り、或は笑中に諷刺あり或は同音重調を用ひて洒落を述べ、或は他に寄せて嘲笑し、或は「エピグラム」（短き名句？）を用ひて人の感を惹く等の働きにあるあり、之れを詠ずるもの頓智最も發達し、快濶磊落之れに伴ひ來るを知らん、西行嘗て七瀨河畔に麥粉を食ふてむせびしとき、馬上の武士橋上より詠ずらく「信濃河七瀨と聞くにいかなれば法師は獨りむせわたるらん」、西行徐ろに「信濃河なゝせ渡ると聞てしが君が馬こそやせ渡りけれ」と返へせり、答意速妙斯ること甚た多し、之れ狂歌の頓智より出でたる冷評なり、「うしろ見せて迯る螢は虫籠の衣のたてのほころびしより」と言ひしは雄大の事を小事に當てたるの滑稽あり人に洒落れ（山おろしはげしかれとは祈るなる花に世話やくとしより朝臣）、景色に洒落れ（春の雪文字あす鳥の跡もなく消へて流るゝ水くきの岡」花に洒落れ（口なしに咲く山吹は庭さかひ爭ふ時やものをいひけむ）、淋しさに洒落れ（結びたる壁も破れて賤か家のつちをとすなる秋の夜砧）、戀に洒落れ（走り筆あまりにふみを書き過て先きから切るゝ挨拶ぞ憂き）、終に無情の感に洒落る（高の山おろす嵐のはげしくもこのはは殘れ後の世までも）、其洒落るゝ所地口駄洒落の如くあらず、中に自ら妙味靄然と棚引き來るを見るなるべし、之れ狂歌に有せる一種の面白味のみ、之れを知らずして無頓着にも排擊すべきものにあらず、能く狂歌の粹を練習するものあらば、Ludicrous の容易に意想より發達し來た

るべきものたるを知らん、文字に志すもの利益少からざるべきなり、噫狂歌滅すべからず。

## 批評

### 日本文學全書を讀む（其一）

雲松雅文

日本文學全書てふふるまきを、いたづきの身の徒然をいやさん料にも、と親しき友がきよりめぐまれたりしに、よろこびて開きみれば、此書はしも十二巻にてまつたかるを、これなるはその第一篇とて、竹取物語、伊勢物語、紫式部日記、住吉物語、徒然草をば、一と巻の中にあつめたるなり、斯くて讀みもて行くうちには、くさ〴〵の心にあらぬふしあるをいはでやまんはあかくに、心もとかれぬ業にしあれば、やがて二つ三つのさだめしてなん、あいなだの多からんは今更らあれど、そも古のみやびをしたふ心ざしのやみ難きに、さのみはたゞさてやみぬ。

ちかきころ、文學といふと吾れも人もたづぬるやう來行けるにて、皇國の古文としいふものも、今はすこしく文學びする輩の、好みて讀むとはなりけり、されど大方は中古の遺文にて、しかも折にふれ女性などのすさびになれるものを見てことよあうあかしきものとぞすなる、すべてかゝる草子物語などのいでそめしは、荒淫卑陋の事世にあやしまれぬころなりければにや、女色のさたなどのあらぬは多く得難し、されば古人も、伊勢、源氏物語などは、年弱なる男女には禁じて見すまじき物とさへいひあへり、おのれもいつぞや、この頃の文學をなずらへて、顔色泣媿き女の、いみじう後姿のよきが如し、といへり、そのたわやぎたる文のあやを見ては、えんなる心地すなるも、文學の功とや數ひつべけれど、いはゆる庶子の春花を採て、家丞の秋實を忘れんよしは、先人すでにこれを戒めたりき、かの文學なるもの、いかで唯に一時の快を買ひ、樂をとるをもて足れりといふとあらめや、さはとておのれは不足開世敎雖工無益としもいはねど、かの縣居の翁の、心やさしかれどすがたわろくてはあるべからず、すがたよけれど心のわろきはいよ〳〵わろし、といはれしこゝろをよろこぶなり、わけて皇國の古文とだにいふからは、古記に見えたる祝詞壽詞をはじめに推さでやはあるべき、これらは皇國の國初より傳はれるなれば、かのなべての物語草子よりはふるくかつ正しからんと、固よりいはず、國語をむねとして質直のさまをものしたるなれば、そを讀みて解きたらん者は



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

古語を辨へ、古文を曉り得べきのみかは、上古の國風を察し、國躰の大本を知られんこと、これにしくはなし、さるが上にもその書樣はいみじう文學の趣味ありて、おのづからなる高致を備へぬると、かの邪淫俗をなせる世に、女性のすさびに成れるものとは、薰蕕のけぢめはたいちゞるし、さるに今の人の此理をば得辨へで、ひたぶるにみだれるときのしかもうたてき業にしたがへ、すたれぬる世のあだし花をのみめづることいかにぞや、さるはみな本すゑのわかちあるよしふかくもきはめでなすならし、かくて此の書まきをみるに、あほかゝるものゝほんのたぐひをなん志り出てゝ、これを本邦固有の美といひ、古文學の標準としいふこと、わざと世にこびてひたすらにそむかじと思へばにや、さあらむにはこれらの人々日頃の心ざしにも似で、取るにたらぬひがとあらめ、しかはいへど、齊一變すれば魯とあるとしいへば、これをもて世の人々を道きつ、おもむろに古文の精醇をも得させんとにや、かのはしがきにも、更らに續刊の功を遂げて、全書の實にそはんとす、といへば、おのれはその折りに至りてまた論もしつべく、これより本書の解題といふものにつき、いまだしきところ〳〵を辨へんと思ふになん。

## 三 評論

普通の雜誌中、評論を旨とするもの大率ね三つあり、云く經濟雜誌、國民之友、日本評論是れ也、經濟雜誌は經濟の專門より文學と政治とに口を出し、國民之友は政治の專門より文學と經濟とに口を出し、日本評論は文學の專門より政治と經濟とに口を出さんとす。經濟雜誌は溫厚にして老練なり、其のユーモア特に及びがたし、國民之友は愛嬌ありて綿密あり、其用意周密なる處ろ感心なり、日本評論は和漢洋をこき交ぜたる一種の俠客に似たり、常に叱咤する聲勵しと云へども未だ場慣れざる所ろ多し。惜しひ哉經濟雜誌は十一月比迄で其主筆者を失あひ、國民之友は近來何にとなく活氣を失ひ國民新聞に油を吸はれたるが如し、日本評論が長足の進步を爲さんとは吾人の共に注文する所ろなれども、世は万事思ふまゝにのみ爲らぬものと見えたり。

## 十一 新聞

日々の新聞帋にて、一層目立ちて面白きは、國民、江湖、讀賣なるべし、國民が演說の筆記、會話の筆記は目先の變わるによりて樂しみなり、但だ其雜報の如何にも舊く少なきには殘り惜しく思ふ也、たとへば延たる雜誌の如し江湖の社說は

實ある花に似たり、これに伴隨せる短篇亦た一讀するの價ひあるなり、讀賣の雜報は中々に見所ろあり、特に近日其政海波瀾の一報を掲げたる如きは格外の功と云ふべし。續きて讀むべきは時事新報每日新聞あり、時事の社說は相變らず妙あり、每日の社說はいつも乍ら剛直、目下汝を棄て、何處にか吾人の友を求めん、社翁の逝去悲しむべしと雖ども汝を減ずるに足らず、但だ汝が之によりて一層直からんことを待つ耳。朝野の奇は最早古くあり、東京新報も改良后左して目立ぬが如し。日本は例の如く、堅々、雜報常に氣骨あり、老壯士の勇彌〳〵隆んなりと云ふべし。報知と日々とは近來眠れるか、何んぞノンベリとし、白々とするや。政論は正に一變革を要す、公論は初より人の知る所の如し。

## 國文學讀本

雲　峯

明治年間に於て我國の文學は進步を爲したらんされど其進步は文學全體の進步と云はんより寧ろ文學の內の一小部分の進步と云ふ方適評なるべし一小部分とは即ち小說なり若小說は人間社會の實相を摸寫せるを以て目的となし所謂實際派とやらんと宜しきものとせば我國明治の小說は前代に比して進步せし所なくんばあらず然り小說に於ては斯の如しされど詩の如きは未た少しの發達を見ず散文に至つても小說論文を除くの外進步の見るべきなし吾人の望む所は文學全體の進步にぞある、近來小說少しく世人のあく所となりて他の文學漸く興起せんとし或は演劇に力を致す人あり或は詩歌に熱心なる者あり國文の隆盛を來さゞる可からずと云ふあり加ふるに他日小說の尙進步するあらは我國文學全體の進步期して待つべきのみ吾人の樂み之に如くものなし。

先之に普通國文、日本文學全書出で亦國文學讀本と題する者現はる予開ひて之を見るに國文學全體に就きて大家を精選し且其發達變遷の順序を知らしめんが爲めに作者を排列するにはすべて時代を以てせる有益の書あり我國古來の大家擧げて網羅し盡せしとは云ふ能はざれど先づ大體を知るを得べし戯曲、小說、俳句、狂歌、和歌、論說、傳記、記事等を集め長篇は文章の粹を拔萃す、全篇四百余頁大ひに國文を學ぶの利便あり殊に作者の傳を掲け亦卷尾に難句の註釋を施せしは甚た可なり文を學ばんと欲する者宜しく一本を購ふて坐右の銘となすべし蓋し益する所少なからざるべし終に少しく吾人の希望を述ん本書可は即ち可なりと雖もまた吾人の望に充たさるものあり（第一）今一層廣く文人を網羅せん事なり例せば元祿時代の小說家として尊敬せらるゝ西鶴の如し彼の作は誹諧文なるが故に芭蕉を擧ぐれば足れりと云ふ人もあらんされど芭蕉と比すれば自ら異種の文人にして一派をなせり是吾人が其文體を知らんと欲する所以亦本篇に加へん事を望む所以なり又其碩の文體も見ん事を望み柳亭をも入れたし焉馬もよからん一九も可ならん只に小說家のみならず其他の文人にして尙大家多かるべし苟くも一種の文體を爲し居るものは能ふべくんば其摸範を示されん事を希ふ素より小說家文は猥陋淫奔の者多ければ吾人は之をも掲げよと云はず其只可なる所を擧んを望むのみ（第二）作者の傳記の一層精密ならん事を望む我國には文學者の傳記無きを以て大家と呼はれ文豪と稱せらるゝ者にて其人物著作等の事を知るによしなし是吾人が第二の希望を抱く所以なり（第三）に望む所は注釋の精はしからん事なり和歌抔に至つては殊に此道を學びし者ならでは解し惡きふし多し只に和歌のみならず誹諧及び其他の文章に至ても尙然り初學の者には注釋の密ならん方宜しかるべし本篇卷尾に注釋を附すれども吾人は未た之を以て滿足する能はず吾人の希望する所或は行はれ難き事ならん蓋し斯くすれば大部の書となりて不便を感すべければなりヨシ少しの不便はあるも吾人は精細緻密なる書の出てん事を國文學の爲めに希望する者なり、　月中旬妄言。





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 雜録

## 家庭の風色

千松閣女史

### 其三

主人公の歸りを玄關へ迎へ出たる妻君アラあなたそれはなんです。これはお土產げ。薔薇ですか。左樣ご覽の通り。マーどうしてこんなに大きな花でしよう、そしてこの香のいゝ事どうも云はれませんは、私しやいやになつてしまいますよ。ヲヤナゼ。ナゼツテ。每日私があんなに手入しても、こんな立派な花が咲かないんですもの。ところが、培養の仕方が不充分だよ。そうですか、すりや、その仕方お聞きなさいましたか。記かへて來たのだが、其傳授を敎へようかどうかは未定だ。いやですよ、またからかつて、そしてこの花籠はどうしたのです、支那出來の樣ですな。これは感服、その鑒定がつけば。モー知りませんよ、私しこの花持て參りますよ、なぜ今晩はそんなにおれいがひまがいるのですか、私し先へ行きますよ、食堂へいらつしやい。ヲヤ今食事。あなたお歸り遊ばさないから、今迄待つて、漸く始めたところですよ。それじやお請伴しようか。あなたもまだですか。ナニすんだのだが、幾らご馳走でも、他家の物は口に適しなくつて困る、内は料理が餘程上手だぜ。松（下女の名）それごらん、お前が骨折からお譽め遊ばしてるは。恐れいります、皆奥樣の。アラ、イ、ヲ、あのお湯呑を。主人仕舞つた、明日は土曜日だ。「ナゼです。明日は三池が婚禮だから、倶樂部へ今日中に斷りやつて置かなくつては。今朝手紙を遣つて置きました、幹事から承知したと返事が參りましたよ。そうか、そらよかつた。留主に會社の手代が來やしなかつたか。先刻來まして、勘定書を内の控と見合しましたら、よく合ひましたから、調印して返しました。それもよしと、今日は山井の家で上川に逢つたよ。マーそうですか、いつか私しが、あなたそんなにお嫌ひ遊ばすけれども、あの方は屹度あなたを信じて居りますと申した上川さんでしよう。それよ、久し振に今日逢つたのだが、ナゼこんないゝ人間を僕は嫌つたかと思つた。そうでしようとも、元來公平ないゝ方ですもの。明日の婚禮は、矢張日本だと、どうも當節は式が一樣でないから、實に面倒だ、衣物はいゝかえ。ヘー日本ですか、どうだかと思つて、兩方だしてありますから。それじや先なにも氣にかゝる事はないと、どれ奥へいこう。今晩は面白い企てがあるのですよ、先刻清坊も、三枝子も、學校から歸つて。歸つたのか、なぜ來ないのか。それ

に面白い種があるのですは、二人はあなたのお歸りが晩いつて、大騷ぎです。それじや早く行つて見よ。奥じやないのです、離れですが、奇麗で慄く程ですよ。また可笑い遊びで腹を抱へさすかな。」

其　四

いと不興氣に且慌込んだる主人、貴様、昨晩、今日は二番汽車で行かなけりやならぬと、あれ程言て置たに、貴様には分らないか、温飯が出來なくとも、湯位は湧かさしておけばいいに、貴様が自身にするじやなし、何の爲、僕や女は居るのか、仕方がないから水で喫て來たが、チト氣を付けな、それそこな襟紐を。どこに。洋服の傍にあるだろう。見付りませぬよ、いつでも衣服を脱ぐとき、ぞんざいだから。ナニ貴様の仕舞が惡るいからだ、こんな事言てる間に時がなくなる、チット思ひ出した、少し切れているが、以前のがこゝに、モーよし〳〵、づぼんを持つて、そう一々持つて來なくても皆一所に、チイぼたんがとれてる、チョイと早くつけてくれ。ぼたんはあるのですか。あるもので。それじや仕方がありませぬは。ぼたん一ッ蓄へがないのか、仕方がないチ、モー時がない、それじや、日本服にしやう、早く出してくれ、是は綿入じやないか、このぼか〳〵する時節、殊に何だか垢臭い様で、袷を出してくれ。袷へ、袷は長持です、急の間に合ひませぬよ、それでもよければ出しましよう。どうも實に困る、そして羽織迄綿入、そのうへ紐がないよ。こおつと、どれか外のに付けかへたつけい、それじや、この毛糸で橋架しておふきなさい。貴様、おれがこんな無粹な風で他出しても、どんな氣もしないか。餘りいゝ事もありませぬが、ダッテ、あなた、呉服屋へ毎月こう拂があつては困ると、仰しやつた事があるでしよう、それから私しはそう極めました、これからどんなに衣物が破れようが構ふものでと。馬鹿言へ、新しい物ばかりこしらへといふ事じやないよ。新しいものでなくて奇麗なものがあるものですか。それを躰裁よくやるが甘いのさ。甘いか味ないかしらんが、そんな事が出來るなら、あなたやつてでらんなさい。おれに出來る位なら、貴様にたのましないよ、チイ時計を見、モー九時だ、貴様が朝寢だから。ヘー夜が深けますからチ、遊んでるものは面白いかしらぬが毎夜深して待つてるものゝ身になると、早起きも出來やしない。愚なものは仕方がない、役者の用でも何でも、晩ければ遊んでる事と極めてるのだから。ヘー、私しはどうで愚で

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すよ、その當り言葉を後に遺して、出で行きし主人公は、叫んだり、嗚呼家外の空氣は實に清涼だ。ヤット行ちまつたとつぶやく妻君、ナゼあゝやかましいんだろう、マー留主中は暫く極樂だ。

## 無用の事には拙なけれ　かすみ

昔し聚樂亭にて御能の時、秀吉自身能を成され、織田常眞、徳川家康など御相手いたす、常眞は龍田舞の名人なり、中々見事なると言語に絶す、家康は舟辨慶の時、義經に成られたるに、肥りたる老人なれば中々見ともなき形ち、義經らしき處は少しもなしと皆々笑ひよどむ、切合の躰無調法なること腹筋よりもおかしきと也。後に近習の人々噂さしけるは、常眞は諸事達人にて、入水の道、和歌の風、及散樂等の事まで世の常ならず、然るに家康公の様なる無骨人は一人もあるまじ、百姓を武士に擧げられたるに似たりと語りしを、秀吉聞し召し大に氣嫌あしく、常眞は無用の事に達人なり、家康は無用の事に下手なり、家康は才人に勝れ勇万人にあたる、誰か之に及ばん、常眞と同日にして論ずべきものかと。

## 希臘人の躰育　もみぢ

社員は引續きイルフルエンザに罹りたり、苦しきとは僅かに三四日なれど、熱却きし后ち疲勞一と方ならず、悒々として万事懶らく、得喪善惡を度外に置くの心地も屡ば湧き出づるなり。此時惟へらく、人の肉躰も亦健やかならずんばある可らず、身躰健なれば勇みて善を爲すべし、身躰不快なれば自づから罪に陷いるとあらん、故に昔し希臘人の如く、躰育を盛んにすると極めて必要なりと、病窓つく〴〵と碧天を望み、只管らに感慨す、あゝ吾れ癒なば一層此事に力を盡さん。

## 西京同志社に於ける　モリス夫人の演説

きぬた筆記

今朝態々此會集に來り諸君の前に居りながら一言も談さずして退くは甚だ不本意でもあり且つ神の御意でもあるまいと思ひます故敢て一言致します。

今朝兄弟が爾曹キリストイエスの意を以て意とすべし(腓二〇五)、と勸められ我が良人も續いて話されしにより略おわかりになりましたと存じます、私は之とは少し違ひますが略似よりたる事について御話致したいと存じます。數日以前の事ありしが兼て來たく思ひし此校へ來り種々の建築特に既に大學にならんとしつゝある理化學館其他を拜觀し非常に喜び心に餘る程で厶りました。其より此所を去つて女學校に參り見るに

以前の大なる歡喜は全く一變して憂愁となりました。之は何かと申せば他でもない男學校のかく迄宏大なるに引かへて女學校の微々として振はざることであります。此政府に於て女子敎育を忽にしては眞に大なる不幸と存じます、女子敎育を忽にすると否とは此日本の文明に大なる關係あることにて私考へまするに、

日本の振はざる所以は

多くありましようなれども女子が男子の劣等に位することは一大原因ならんと存じます。私は今日本に向つて何を望みましようか、妻が夫と共に、女子が男子と共に、同等の敎育を受くる事であります。然るに或る獨逸の醫學士にして日本に在留する人の說を聞くに、日本の女子は男子と同等の敎育を授くるは到底能はざる所である、なぜと申すに日本の女子は皆身躰孱弱なれば、男子と平行して敎育を受くるの價値なしと云はれましたが、私は之に對して二の明白なる證據があります。嘗て、

日本の御婦人が私の宅を訪はれましたから、其目的を伺ひますに、醫學研究の爲と申されました、其容躰を見るに、顏色青く躰瘠て氣力なく、かゝる人が學問の研究特に學問の中でも難澁なる醫學を研究するは大なる誤にて、到底六つか敷事と思ひました。然し四年を經て見ました時には、全く變つて、顏色も充分に紅みを保ち、肉つき、實に壯健なる人となり、學問も進步致しました。是に依て思ひまするに、日本女子の身躰の孱弱なるは、敎育發達の方法其宜しきを得ざるが爲にして、決して素より弱きには非らざる事と信じます。又其他に一例を有します、之は

費府市中の高等科を授くる女學校

に來りて學ばれたる日本の一女子にて、敎授議會の特別の計らいにより、傍聽生として勉學せしが、終りに試驗を受くる事となり、其業を試みしに、案外の好結果にて、優等の證を得られました、此方は屢々私の宅へ來られました故、或日貴女は學校に於ての勉學が如何ですと問ひましたれば、答へて私は此學窓に在て、毎瞬時毎瞬時幸福と喜悅に滿ちて居ります、然しながら唯一つ心配なる、事は、故國にある數万の姉妹が無學不識の淵に沈んで空しく日子を費し居る事で、

私が幸であればある程、強く感じます

と申されましたが、此姉妹の詞に由ても日本にも男子と同等の敎育を望むものあるを知りました、是れ女子諸君の爲め大

に愛ふべきとであります。男子諸君の學校は益々宏大に、天にも達する許に致しだいが、是と共に女子の學校も決して卑下しその害となる樣なとのない樣に致したいと存じます。今古今の歷史を繙かんに、何の國何の時代にも、女子を輕んじ其敎育を忽にしたるは多く野蠻時代にある事を見る、女子の敎育は、即ち文明國の特質となる事を發見致します。而して天下に於て尤も女子を貴みたる人はイエスクリストであると存じます。故にクリストは復活して第一番に女子に顯はれ玉ふて、汝恐るゝ勿れ、恐るゝ勿れ、歸へりてガリラヤの人々に之を告よと命じ玉へり、若し此事信なるか。此重大なる役目を女子に任ぜられたる位なれば、社會に於ても貴き事業を女子の手にも委任すべき筈であらふと思ひます。然れば女子は果して此大任を委するに足るや否、を諮するの問題が必用となりました。抑歐米の社會を見れば、女子の取るところの事業が、社會進步上に大ある影響を及ぼして居とを發見致します。私日本に來りて、各所を遊歷して見るに、何の國何の町に於ても、女子が禁酒會、慈善院、盲啞院、幼稚園、救貧院等の事業に從事せざる事なきを見受けて、大に喜びます、此事は將來必す發達すべく、又是非とも發達せしめざるべからざるものと思ます、良人は、

新島襄君

が未だ米國にありし時御目にかゝつた事を申しましたが、日本の學生諸君が御出にあつて、毎月一回親睦會を開き種々の談をなし、聖書の研究抔する事を常例と致しますが、其中にて、此學校の生徒諸君が聖書に精細しきとを見出します、何卒新嶋君の摸範に倣ひ、クリストを手本として、勇敢なる兵卒となりて日本の爲めに御働なされん事を希望致します。

## 其男を叩き殺せり

押川方義君此頃ろ米國より歸り、慨歎する所ろ多し、特に彼地の婦人の事、ホームの事に說き及びて、到底日本の婦人長進せざれば望みなしとて大ひに慷慨せられたり、吾人は他の洋行歸朝者と違ひ、同君の口より此語を聞しは最とうれしく感ずるなり、且つ同君の談に、米人の女性を敬愛するや殆んど預想外なり、氣違ひにても婦人に對しては惡口せず故に氣違ひの看病人は是非とも女なり、又同君が或る片里を通りたるとき、無禮の男ありて某女を强姦したる由聞しかば、村の



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人々集り來りて其男を叩き殺したり、警察吏は之を知れども知らぬ風に放置したり、人命を尊とむ彼地にても女性に對し失禮あるものを遇するとき斯く計り殘酷にすれども尚ほ人之を當然とするほど也、かへすがへすも日本人をして更に女性を敬まはしめたし。

## 門出

ゆかり

小太郎よ東の方は白みたり、時遲れなば詮なけん、今朝出陣の門出には、母が鎧を着すべきに、寢過したりとて笑はれな、聲を聞くより若者は、打着の衣かい遣て、ヌックと計り起きあがり、夢にもつらき別れかな、うつゝに泣し其の時の、涙を今朝は見すまじと、ひとり心をはげまして、筧の水を手に結び、身うちを清め立歸れば、母は昨夕に似もまさず、笑ましげにこそ見えにけれ。

小太郎よ御身は既に十五歲、父の御命今日明日と、思へばたゆたひ居らるべき、小腕なれども小太郎義國、太刀の嵐の烈しきに、群る寄手の木の葉武者、吹きまくられて色めくを、城にて見ます父上は、さぞな喜び賜ふべし、卯の花をどしの胴丸は、父上此處に御はせし日、御身が初陣せん折に、着す可きものと命せたり、打ものゝ具は何よけん、太刀は長小舟小太刀は滿則——日頃帶ばんと願ひしも、許さゞりしは今日のため——若滋藤の强弓に、十八させる鷲の羽の、矢鏃もとぎにとぎたれば、徒矢をかまへて射賜ふな、月毛の駒に渦鞍置て、破れ芭蕉のさしものを、秋篠下しに吹なびかし、猪首に着なす白星の、兜を朝日に輝かせ、手勢を勵まし進みなば、圍みし敵は恐るべく、守る味方は勇みなん、のり勵まする母親の言葉に勇む若者は振ふ計りに喜べり。

支度調へ立ち上る、兄が異る裝飾に、奥の方より走り來る、弟は兄に近づきて、兄上何處に行き賜ふ、我れをも伴ひ賜へかし、伴ふことのかなはずば、今日は早くも歸りませ、よいもの調へ母上と、御歸るさをまつ可きに。孫小太郎よ早や行くか、げに天晴の武者振よ、門出の樣を小濱なる、父に見なば喜ばん、勇める儘に深入し、重き傷をなうけ給ひぞ、進む計りが武士ならず、小濱の城へは十三里、秋篠峠の難所あり、馬をいたはりとらせかし、二歲越しに父上へ、見參するをたのしみに、他の事をば顧みず、武士の覺悟を忘るゝな。從者の引き來る月毛駒、嘶く聲は騎る主の、心の手綱弛めぞと、いさむる如く見にけり。さらばと許り立ち出て、祖母樣式夫に母上もと、云ふ聲さえも陰り勝ち、弟の顏も見納めと、



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

思へばまたもせき來る涙、駒の頭をとりなほし、味方の勢に伴ならんと、まだ露深き道柴を、小濱の方へと急がする、後を見送る祖母と母、棚引渡る横雲に、晴れぬ恨ぞ深からん。

## 一席夜話

### 長者の心得

山下石翁

先達ては立身の心得方を話しましたが、今晩は人を使ふ心得方を申さう、よく人を使ふとが出來ねば人が服さない、人が服さぬときは人の長となれぬから、ツマリ最上の立身は出來ぬものです、ソコデ、人を使ふの方は支那人が余程よく研窮をして居る、漢學の書物は大抵人の使ひ方が書いてあるのです、之は王道だとか、主君の心得方とか云ふとを多く書いたものだから、自然人を使ふの道が備わつて居るのです。其文に、君たるものゝ能は人を用ゆるにあり、自ら用ゆるは其長所にあらずと云ふてあるが、之れが第一の心得です、若し自分で手を出さうとしては人は決して働らかぬものです、人々をして自由に働らかしめ、宛がら其當人一己の考で働らいて居るやうに思へせ置き、タヾ其大躰のくゝりを取り、万一の失策に用意し、入費の出處を豊かにし、其成蹟を賞め、其功を彼に歸するやうにするときは、人は喜んで立ち働らくものだ、然るに使ふものが使はるゝものと競爭する心持になつて自分で其事に手出をするやうでは、使わるゝものも十分に働らかず、よく働らくとも發達するとが無い、ダカラ第一にはよく之に任せて自由にして置くとが肝要です。

第二は、輕々しく人の言ふとを聞かず、評判を信ぜず、必らず當人に會つて一應直接に聞質したる上でなくてはウカと信ぜざるとです。第三は、斷乎として動かざると、沈重にして輕々しからざると、明白にして曖昧ならざるとです、此の三つは極めて大切のとで、若し此の一つを欠くときは、使はるゝものに輕んぜられ、疑われて、誰も遂に命を聽かぬやうになるものです。第四は若し使ふものが多くあるときは、可成く万事を會議にかけて、人々に同心共力の念を起させ、共與に奮發するやう導くのです。此外にもまだ色々あるが、まづ私が經驗した所ろでは、之丈けが尤とも大切であつた。

### 十圓の救助金

窮民天下に充つ、食なくして飢に苦むあり、衣なくして寒きに惱むあり、妻は病床に臥し、兒は飢になく者夫れ幾許ぞや、此際に於て慈善家の起らん事吾人が熱望して止まざる所なり、横濱に無名氏あり特志を以て貧民に十圓を救與す、近日我社より之を配與すべし。

# きよめぬ庭

## 其十二

洒落齋主人

つれ〳〵草のかきて

世の中に絶えてさくらのなかりせば」とうた詠みたる人は、さくら花好みたる人なめれ。雲と見ては今宵の月にうからまし」とうたよみたる人は月好みたる人なめれ。駒とめて袖うち拂ふ世話もなし坊主合羽の雪の夕くれ」とざれたる人は雪好みたる人なめれ。かゝるさまに花を愛、月をめで、雪をめづる人のあるからに、或は春の曙、夏の空、秋の夕暮、冬の朝などさま〴〵なる好みあり、此等はみな風流の心より出たる好みなれど、また色を好み、酒を嗜み、黄金の光に眼を眩し、浮きたる人位に心を鎔かすなどの好みは無下に卑し。

されど人として心を慰むるものなからましかは、たゞ其好みのしなによりていたく差別の出來んのみ。朝より夕までしかつめらしき顏して、衣紋裝ひ、物の云ひ樣も、左樣然らば、況んや於てをやなどにて、張りつめたらんには、その身のみならで、側の者の迷惑いかばかりあらん。人として禮なければ、禽獸に同じと云へる禮義さえ、一通りの挨拶にも「其後は暫時御意を得ませんが、閣下益御健勝にて何より珍重。當節は實に不時候で御坐りまして、一昨日は風、昨日は雨で、さぞ御退屈で御坐りましたろふ。今日は生憎曇りまして、只今東風が吹いて居りますから、此分では明日は雨で御坐りませう、明後日は堂か御天氣に致し度ものです」と氣象臺の天氣報告の如き辭を長々しふならべ、いやが上にも頭七つ八つぬかづきて、まだ足らぬ顏なるもいとうたてし。

徒然草にも「ありたき事はまことしき文の道、作文、和歌、管絃の道、又有職に公事のかた、人のかゞみならんこそいみしかるべけれ。手などつたなからず、はしりがき聲おかしくて拍子とりいたましうする物から、げこならぬこそをのこはよけれ」と云たるぞ、ほゞつくしたる。かゝるうち、何人もす可きものは、學問の道にて、此道の功驗と、そがたのしみのふかきは、深く入るにつけていよ〳〵廣し、されど學問せん人は、常に之を世の中の爲に應用るとにこゝろがく可し。獨人のみこみにて、他人のわげ足のみとるとに心をつけ、さればとて、自には、何事もなし得ぬなんど云る學問なれば、せざるかたぞまされる。

一新の頃ろ、或にぎわしき所に來り、一錢の蓄もなき身を粉にし、ある限の智惠振ふて、黄金白銀をまふけ、朝夕の食事さえ、



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

腹ふくるまでも得食はで、たくはへしものから、今は何十萬圓と云へる身代となり、何とかして紳士と云へる仲間入せんと思いけるうち、海防費の献金せば幸あらんと云ふことき丶て、幾萬圓程にや献納あしぬ、何位とか云ふ人位得て、やう〳〵肩身狹からぬ身となりぬ。されど學問と云ふ物したることなければ、盲蛇ものにおぢず、學士など云ふ者は、かへりて踏着にし、一人の女をば、何得せぬ人なりとも、位ある家にやらばやと思ひしに、幸ひ或る勝手あしき華族にて、御臺所つきあるを目的に、此にはか紳士の女をなん迎へける。

或日此家より風爐開きにとて、しうとの紳士をなん招きける。書院、庭前、路次、飛石かゞみの如くみがき、唐土大和の珍らかある調度どもかざりたて、いざとてしうとなる紳士を、上座になん据へたり。紳士は膝のすわりあしきをなをしつゝ、夕より朝にかけて、にはかに宗匠まねぎて、聞き覺えたる、道具飾りつけなどの褒詞、片言交りに云ひ居たるが、床にかけたる牧溪の猿猴の繪をみて、此れを褒めんとすれど、猿猴をさえ識らざりければ、「さて〳〵美事ある表具かな、此は何と申す和尙樣にて候にや」と問ひければ華族なる主人もあきれはてたれど、そらさぬ樣とて「これは牧溪和尙の筆にて、繪は猿猴にて候」と答へけるに、紳士「さては此ぞ兼てきゝ及びたる吉田のえんこうにて候か、さもある可し、あれほど長き手あらずは、よも徒然草ほどのものはかゝれまじものを」と云ひしとぞ。

## 家の手わざ

天知翁

### 飼料の事

第六飼料。の事は在來飼料の如き粗惡物を與ふる事を改め、又一方には成るべく低價の物を撰む事に務めざるべからざるを以て、最も妻君方の爲めに工夫して膳部の殘りを利用する事を考へぬ、尤も價なき雜穀類にても與へ法宜しければ隨分肥へて健かに、多く產卵するものなれば詰る所能く面倒を見る出精なる妻君が第一の勝利を得べきあり、併し滋養物を過食する事も亦無益に肥へるのみにて卵を產まざるものとなる恐れあるべし、凡そ餌の最も注意すべきは雛の時にあり、雛脫殼後一晝夜も經て與え始むべき食物は小米三分に麩七分を混ぜて固き糊の如くに煮、之れに生卵子を少し加へて又僅か煮るなり、そして此冷へたる後に骨粉（獸骨を燒きたる農用肥料なり此物あき時は貝殼又は魚骨を燒て粉末とし代用するも宜し又麩もあき時はうどん粉にても代用すべし」を少し加



Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

へ更に木炭の粉を最も少し入る、之れに細き砂を極めて少し入れば消化上尙可なり、又之れに膳部の餘りなる獸魚の肉を細かに切りて混ずるも宜し、但し家禽には必ず少しの鹽分を要するものなる故殘り物最も適すべし、前の餌は豫め整へ置き之れを與ふる時に細かに刻みたる青葉を混ぜ與ふべし、必ず前より混じ置くべからず、此煮たる食物は凡そ一週間も與ふれば其後は小米に骨粉、炭末、等を混ぜ與ふれば可なり、前の小米に代ゆべき品は小麥、オート麥、玉蜀黍、等の挽割又は玄米の粉若くは挽割なり、且雛の内は時々胡椒の粉少しを混ぜ與ふれば大に健康を助くべし、既に躰格完備せる鷄となれば膳部の殘物何くれとなく、縱令へ鹽辛き物なりとも與へてさして害ある事なし、されど雛の時には此鹽辛き物多くを與ふべからず、青菜の新鮮なるものは常に與ふる事を要す、是れと共に水も亦鉄器若くは古釘を入れたる器にて常に新き清きものを與ふる事を勉むべし、又常に虫類を作りて啄食せしむる時は殊に雛は其生長甚だ健かにして羽毛の整ふこと早し、則ち藁、塵芥及び飼料の食ひ殘り物等を掃き集め之れに藁、古筵等を厚く覆ひ數日放置すれば腐敗して温熱を生ずべし之を鍬にて掻き散らし乾し、後再び堆積するに青草木葉等を混じ水を注ぎて稗、麩粕、糖粕等を煮て混ぜ置く時は數日にて多くの虫を生ずべし、產卵すべき牝鷄には石灰質即ち骨粉等を與ふる事肝要なり、鷄糞は時々能く掃き寄せて少しの餘地あれば其所に積みて筵を覆ひ置き腐釀するを待て土中に埋め花物又は菜類を培養するの肥料とせば尙益あるべし、飼料は大抵朝晝晩に與ふれば足るものなり。

## 女學雜誌前編輯人 近藤賢三君四回忌

日月梭の過ぐるが如く、友人近藤賢三君眠りてより既に四年さなりぬ、嗚呼君さ初めて女學雜誌を起せる時は、會計收支償はず日々月々に困厄し、常に淚を呑みて天を望みたり、然るに號漸やく二十五に達し、國中吾輩の志を知るものあるに至り君卒然さして逝けり、憶に、當日の吾社は本郷弓町の茅屋にありき、君逝きて余は殆んど爲す所を知らず、暫らく失望して遂に大に决し、

然れども去年共に女學雜誌を發行し艱難な困厄の間に堪へて今日に至る共に約する所ろ尤も多し密かに日本女性の改革を以て相許し共に計畫する所ろ尠らず此れ君が尤も力を盡したるの所ろにして余が君さ志を同ふするの所亦尤も之に多しさす向后いよ〳〵此雜誌を改進し共に計畫したる所の者を發成して共望の目的を達するを得ば君逝くさ雖ども聊さか其靈を慰さむるに足らん歟。十九年六月五日草弔文

さ、爾來寤寐に君を思ふて女學雜誌を編輯したり、其の今日あるに至れるもの、君に對するの余が愛余を勵ます所ろ多ければ也、君在無しと云へども君尙ほ余を助くるもの也。……然れ共君は溫厚にして義氣あり且つ能く事務に長ぜり平生輕々しき言を發せず未だ嘗て人と論爭せず然れども一旦斷決するや復た之を動かす可らず居常義を見て勇み好みて難に當り尤とも慷慨の事を喜こぶ然も幹理の任に長じて能く創業を計畫するの才あり故に稟質悉とく余と表裏し內外の事一

に相待ちて初めて完然するを得たり（同前吊文）

左れば君もし在さば、吾社今日の事務更に擧るべきを、余れ不才にして經濟の事に暗く財務宜しきを得ざるを極めて多し、此に至りて彌よ君を追慕す。然れとも君が知人森田豊君は君逝く后ち多年一日の如く精勤し、常に君に代りて余を助くる也、吾社の今日ある亦た森田君の盡力多きとを思ふときは則はち亦た君が遺助の洪大なるとを悟る也、嗚呼四年前の今月今日は君に列れたるの日なり、記して暫らく君が靈に伴なふ。

友人、善治　記。

# 小說

## うき世

かほろ

燈の光りかすかに殘りつ夜ハはや三更をや過ぎたりけん、あたりに物音も絶えはてぬ、上野の鐘の音細くひゞき犬の聲遠く聞ゆ、余は古き机によりて獨り書を讀み居たり、余が親しき友は今宵或人の許を音なふとて出て行きたりければ、余は二階に一人なりき、夜は次第〱に更け行くまゝ心細くある、余が心は何時か書物を離れてこし方行く末の事杯考へ初めぬ。血氣未だ定まらぬ少年の癖かは知らねど余が腦中は大なる希望を以て充つ、昔し故郷を立出る時は「男子志を立て……」と歌ひつゝヨシ身は異郷の露と消ゆるとも志を果さで置くべきかと、自ら心に盟ひき、今尚此志の鈍りしと云ふに非ず、口を開けば流水の如き辨を揮ふて世を靡かし、筆を取らは破竹の勢ある文を成して人を動かさまく望む、大器は晩く成ると云へば余は容易には口を開かじ、筆を取らじ、時を待て爲す所あるべしと自ら心に期す。

余の志は斯くの如し、されど千層の巖石も遂に水に穿たる、千年ふる呉竹も雪の爲めに折らる、幾多の困苦に身も疲れ、精神も弱り果て、うき世の波風に遇ひては流石がに世の事意



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に任せぬを切に感ず、去年の冬より病起りて今は勉強も思ふごとくならず、故鄕に殘る父上は如何あるらん、兄弟は恙なかなきや杯思ふにつけ若我志成らずして世を去りたらんには父上の悲みは如何ならん、兄弟は如何に失望するらん、嗚呼余の病は到底癒えぬなるべし、さは云へ此儘にして朽ちはてんも口惜しゝいで、こし方の履歷をものして、せめては此世の形見ともせん。

余の故鄕は片田舍の山高く水淸き所にあり、余の父兄は農業を職とす、余は幼き頃より父上や兄に連られて田畑の耕作に出でぬ或時は籠を負ふて馬草刈に出でぬ、農作の忙しからぬ頃は思ふ友打つれて小川に漁りし春ともなれば家より三里許隔りける山に蕨を手折て、樂き月日を送りし事もありけり、斯る事をのみ思ひ返せば故鄕にありし昔め悲しからねど、余の生涯は悲哉かゝる事のみにあらざりける、今是を思ひ出して此にものせんもやくあけれど、余のたどりこし生涯の一部分なれば此に記さん、余が四歳の頃にやありけん、余の母は重き病ひに罹り給ひぬ、其時の有樣を隣家の老母が告げ呉れぬ、余が四歳の冬母の病ひ重くなり、田舍の事なればよき醫師もなかりければ充分の手充てもできざりき、或日一人の醫師音づれて云ふ樣、病愈重りぬ今宵はこと切れ給はんも知れず、云ひ殘すべき事もあれば聞き置きねと、余が父は兼て斯くあらんとは思ひしも、今はの際までもまだ快復する事もやあらんと、望を絶たぬは人情の常にて、藥を與へつ看病しぬ、其夜十時頃より病勢次第に加はりければ母も遂に望みなしとや思ひけん、父を側らに呼び寄せぬ、もの言はんとすれどせきくる淚に胸も塞がり、只苦しげに細き息を吐くのみ、父も此樣を見てこは此世の暇乞をば云はんとすらんと、推して坐ろに悲みを催ほし、亦云ふ言もなく、暫し母の顏を打ながめて淚にむせび玉ひき、良久ふして父は口を開き御身の病ひ所詮愈ゆべくもあらず、御身がなきあとに望みあらば今云ひ置きねと淚をかき拂ひつゝ云ひにき、母は苦しげなる息の下より細き聲を出し妾がなきあとに望む所とてあし、只よき母を迎へて生殘せる稚子の養育を任せ玉へかし、世の中に不幸の者多くあれど親におくるゝ稚子に如ものなけん、妾今病に死するも妾の事は夢更悲まじ、只愛する稚子が扶くる母を失ひつ、二葉よりあだし世の雨風に打たるゝ事の憐れさのみ心にかゝりていと悲し、妾が只管望む所は稚子を憂苦しみに遇せぬ事にぞある、今宵は常にまして身疲ぬればもの云ふも苦

し、外に云はん事も侍らずと云ひつゝ聲は細くなりぬ、父は聞き終り默然として涙にかきくれ玉ひしとぞ、嗚呼實に人の命は朝日まつまの露と昔の人の語りけんも理りありかし、余の母はまだ年も若くありき、平常身躰も壯健なりとて人に誇り玉ひける程なりしと父は云ひにき、余は斯る事とも思ひ出すごとに常に母の慕はしさに獨り袖を絞りぬ、是だにいと悲しきに、尙ふかく余を悲ましむる事あり、其夜、十二時頃に至り母の氣息愈細くなり行き、もはや眼も見へず、言葉も耳の近くにて云はねば聞えずなりぬとて父は詮方なしと思ひ絕へて母を打まもりつゝありけるが、急に立上りて余の臥し居る所に行き、余を抱き起し玉ひぬ、余は未だ何事も辨まへぬ稚兒にてありければ父の起し玉ひしを迷惑げにて、手足を伸ばして打泣きしとぞ、父は余を抱きもて母の側らにつれ行きつ、まだ頑是なきものと知り玉ひしも、母なき後に其面影や戀しかるらん、よく見せしめなば其面影を覺ゆる事もあらんと、余を母の側らに坐せしめつ、懇ろに告げて母は今失せ玉はん一目見て後の思ひ出にせよ、よく見よと云ひ、亦母の耳近く口を寄せ、余が側にある事を告げ暇乞ひに一眼見よと云ひ玉へば、母は病み細りたる手を徐にさし出し、余に觸れつ、目は見えぬながらも余を見んとて顏を向け給ひしとぞ、余は母の失せ給ふを知らねば常の如く手を出して、母の懷に入れ、乳を求めぬ、父は之を見て悲しさいやまし余を母より引離さんともし玉はず、思はず打伏して涙にくれ玉ひしとぞ、暫くして余を抱き上げ、母の顏を指しつゝ母を見覺しやと繰返し／＼問ひ給ひしも、幼き身とて余は母を見んともせずいと眠げに打泣きつゝ頭を父の胸に押あてゝやがて眠しとぞ、かくて父は母の側に坐しぬ、夜は更け行き、山寺の鐘の音二時を報じ、今は犬の聲だに聞えずなりぬ、草木もねむる丑三つとは此時ならんと思はれていと凄かりし、一陳の風窓の戶を吹く音高く、燈のかげ細り行く頃、母の息氣は、嗚呼余が母の氣息は絕えはてぬ、父は坐したる儘頭をたれて、千行の熱涙を流しぬと余に語り玉ひし事ありき。

葬式の日にやありけん家には多くの人集ひ來て賑はへり、招かれて集ひし隣家の幼兒と打つれて余は遊びに出でぬ、隣家の庭に行きし頃人出で來て母は如何せしにやと余に問ひぬ、余は答へて母は神樣になり玉ひしと云へり、人之を聞きて涙を流しぬ、されど余は頑是なく遊び居たりき、幼き時の事ながら此一事はかすかに余の記憶に留りぬ。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 寄書

## 養鷄に就て

下總下の牧　畜耡生

天知と申す方が、家の手わざ、家禽の飼養を婦人にお進めに成りましたは、至極結構なる事と存ます、私など大賛成です、元來家禽業の如きは婦人に恰度宜しき業です、家禽の最とも盛なる米國など過半は婦人が此業に從事致して居らるとの事で御座ります、カリホルニヤ州には盛大なる家禽家があります故に、本邦の家禽熱心家が同地へ參れば家禽家を訪ひ、家禽將來の見込を尋ねますときは答るに家禽は文明と共に需用益々多くなり殊に鷄卵は、藥用、織物、染物、細工、其他色々なる工業用に莫大消費すると申すとです、又此事業は最とも婦人に適當なれば將來は婦人の事業なりと聞く、私も婦人には甚だ宜ろしき業と存ます今一二を申し上れば　第一　多くの勢力を要せず　第二　婦人の制御に應ず　第三　家禽は管理者の氣質の通りに育ちます荒々敷く男子が育つれば家禽も其管理者の通りに荒く成り温和慈愛なる女子が管理せば能く其女子に似て是より追々家禽の改良が出來ます　第四　飼養上緻密なる注意は女子の得意です。

右の四點は男子の女子に及はざる次第です最とも經驗に富む米人の既に識認致して居る處であります。

然れとも天知さんは戸々數羽の養鷄を唱導成さるの主義です故殊更に賛成です之は衛生上一國に非常の利益があります、先づ最初は數羽を飼養せられて此事業の智識と經驗を得て后ち盛なる飼鷄者の起らんとを望む。

偖私は家禽飼養熱心者の一人にして昨年より養鷄に付度々失敗を致し自今に至り多少、經驗も致し又養鷄の經濟等も概れ立ちました此事業は世人の唱導致す程の大利益あるにあらず第一着手して后ち起るは馬鹿々々シート云感覺です目下家禽の食料高價にして豫算に當らず若し此時に養鷄を斷念すれは夫迄ですが忍耐致して先づ一兩年繼續致せば追々種禽の性質善惡又食料の當否經濟も立ち茲に初めて利益あるとが知れます之れ僅か私が今日迄の實驗說です然し臺處の殘物を以て數羽飼養さるは決して六つヶ敷き業ではありません。

又米國の婦人が此業に從事せらるゝ實况を聞に毎度驚きます日本にては高等の教育を受たる婦人は兎角着眼が高貴に失し居る樣にて事業には餘り多く熱心なる女子の出でざる樣にて誠に殘念に存ます米國にては相應に教育を受たる婦人が此事に働くは私共豫想外にして赤兒は哭く、孵卵器の溫度の注意油の注換、ばんは焦る實に日夜赤く或は黑くなりて勉強せらる樣は感服の外はありません本邦人にして兎角歐米人の侈奢の風を執るも此家禽飼養に熱心なる米國婦人を學ぶ者の少きは甚だ遺憾です望べくは吾黨の愛姉諸君此事業の發達を圖られんとを。

## すみれ草

みちのく

雪の中に匂ひ初にし梅か香も色いつしかはるさめに消てみどりを染なせる千草もゝ草おひ出て朝吹く風にうちなびく霞の絹をほころばし縁りのあやの青柳の原めづらしき七重八重雲かあらぬかとおもふまでのほる朝日と諸共に嬉しく匂ふ櫻花人待かほに咲にけりかゝる詠めもよそにみて獨り思ひにくれ竹の憂きふししげき世の中にと知らでの野邊にうすらひのうす紫におく露の色も匂ひもありながら萬の草にうづめられすがたも人にしら露も共に消行ものなれや心細くも世を渡るかひこそなけれ玉きはる我を造りし千早ふる神のこゝろや如何ならんおもひまわせば久かたの雲の上までけだかくもさかゆる松は冬の日に降る白雪を枝にうけてあな美しと空蟬の世の人皆にながめられ夏にもなれはこゝろなき鳥けものまて奥蔭をしひた來にけりあつさ弓すち日朝の山の端にかたふき沈み夕暮に殘る霞の陰のくらく遠き鳥だにあげもなく色なき月にてらされて心のくもりいやましぬ春の中ばといひながら夜寒の風はさえ渡りゆかりとたのむ紫のすみれの花も散るぞさよ思へばをなしつぼすみれ殘りの夢のさめぬ間に白みかゝれり夜は明て聞けばはるかに風の音はしだふき寄せて老松に響きわたりて大枝に折られて小枝はくだかれいまは見るめのかひもなくきのふは松の木高きをその身くらべうらやみしすみれの花は夢さめて其有樣をながめつゝまたも心に云ひけらく我身もしくはかの強き松にありせは今朝のあらし命はかなく終るべくありしが下にうずもるゝ身こそ幸ちなれ肝向ふ心の雲と諸共に空もやわらくはれ渡り天津光りの陰見へて都に遠き村里の女わらへや野に出て草葉にまじり咲匂ふすみれの花を折りとりて病のとこに長き日を暮らし癈たる友がきに見せてんものと其家に手携りて行子らは只一トふさの花なれどながめ給へといひつればそれをし見ては乙女子はやせつかれたる手をのばしあほざめ顏にうち笑みて苦しき事もたわすれていされもごろに我友よ日ごろ夜ごろに見まほしく思へる花ぞめでたしとめづるを菫思へらくわれはわが身といやしめて世にかひなきと思ひしもまたく我身のあやまちばげに天地をしろしめす神はこの世に一トつだにあたなるものはいかで〳〵ひとも草も生みなしまさむ。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 小品文

## 其五、本の木阿彌、

筒井舜坊順昭二十八歳にて病死す其子伊賀守定次（後に順慶と號す）僅か三歳にてありければ順昭遺言して三年の間は卒去を隱し置くべしとありて木阿彌と云ふ盲人を一室のほの暗き場所に置き他國より使者の來る時は此の木阿彌をして應接せしめたり然れども本阿彌の容貌甚だ順昭に似たるを以て誰一人これを知るものなかりしに定次三歳の時に至り始めて喪を發しける故諸人こゝに於て始て木阿彌なることを知れりと此より本の木阿彌と云ふ語起りたり。

## 其六、難レ有、

法華經に文殊師利佛に白して曰く世尊是諸菩薩。其爲レ難レ有。とあり故に吾人が通常手紙などにて用ゆる難レ有 と云ふ語は佛語にて之を漢語に直せば忝の字にあたるべし。

## 其七、鳧の足鶴の脛、

淨瑠理の壇浦兜軍記琴責の段に鳧の足短しと雖も之れを續がば憂なん。鶴の脛長しと雖も之を斷たば悲まんとあるは莊子南華眞經に鳧脛雖短。續之則憂。鶴脛雖長。斷之則悲。との句を直譯したるものならんか。

## 其八、怪談、

日耳曼のルキセンボルが侯へンリーは深山密林の中に城を築きてこゝに居りたれば世人多く之を知るものなかりしとぞ。侯家の祖先につき頗る怪談あり。或る稗史に曰く侯家の祖先妻を取りしに頗る艷麗にして又た多く子を產み夫妻殊に和樂せり但し夫人初めより侯に請ひて七日ごとに一回私室に入りて人を見ざることを約したり事甚だ怪むべしと雖も侯は數年の間その疑を抑へて之を問はざりしが一日夫人の私室に入りし時密かに之を窺ひしに夫人は（ニキシース）と云へる水處にして七日に一回必ず眞形魚身とならざるを得ざる者なりきと是れ即ち日耳曼帝王中にて賢明なる（ヘンリー）七世の祖なり我が神代にも是れと均しき怪談あり怪しむべきの至りにこそ。

## 第九、主にある奴隸、

米國の或る奴隸毎朝先づ神に感謝し主に祈りて曰く嗚呼在天の父よ願くは我が敬する主人と其の妻とを此の僕の如く幸福にならしめ給へ快樂なる日を送らしめ給へと。

## 其十、ざるわるめ、

聲もはやりかにていふやう。日ごろ。ふびやう重きにたへかねて。ごくねちの。さうやくをぶくして。いと臭きによい。ふんゐ。對面たまはらぬ。まのあたりならずとも。さるべからん。ざふじらは。うけ給はらんと。いとあはれに。うべくゐくいひ侍り。

## 橋上霞

村木經策

おさまたき瀨田の長橋見渡せは
　霞のみをし行人やたれ

## 殘雪

豐かなる秋のみのりも知られけり
　いまなほのころ小田の三雪に

## 薄暮柳

夕けたく煙の空にうすくれて
　やなきにかすもやまもとの里

# 開書

## 貧民を助けよと祈る

R.　O.

拜啓數日來霖雨降續き爲に物價の騰貴を來しさなきだに日常生計に餘裕なき細民の窮困實に其極に達し已に築地三教會員が親しく訪問し救助したる京橋區殊に佃島近傍極貧の細民すら五十餘戸貳百七十餘人の多きに及び候由其他各教會の救助を仰ぎ候者を合せなば實に幾何なるを知らず彼者は氣息奄々空しく世の味氣なきを歎じ死を待あるの有樣にて殊に或る一家の如きは夫已に病床につく妻は出產の期に逼り其の苦痛得堪られざるに二三の小兒傍に居て饑餓の悲境に陷り其慘狀實に想像する能はざる程にて有之候由彼等は八錢餘の惠を得て二日餘の生命を延し得るとて朝の涙に咽候由嗚呼一方には錦衣玉食猶且足ざるの思をなす者あれば一方には實に一椀の食をすら得る能はず半死半生の慘狀を呈する者あり優勝劣敗の時代とは申せ實に悲むべき次第に御座候聞く築地居留外國人は此慘狀を見に忍ずとて別紙主意書の通り救助の一會を組織致候由實に數千里外の異邦人殊には風俗人情を異にする彼等にして我同胞の困狀を憐む斯の如し同く天皇の恩澤に沐浴し



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一は以て情ある天下の義人殊には兼々犧牲献身を口にする諸兄姉の參考に供し度併して今日は實に八錢の金を以て我同胞二日間の生命を延し得る慈善の事業あることをも御書添へ被下度奉切願候(下段を見よ)

嗚呼神よ若し此世に於て多少の幸福を與へ玉はゞ乞ふ我分を取りて之を他に與よ府若し人類の罪惡に報ひ玉はゞ乞ふ先づ我を罰せよ

殊に兄弟の爲めに生命を棄てよとの教を奉ずるの諸兄姉に御訴へ被下度奉切願候意識ち筆走らず御推讀被下度候敬白。

## 文論

●高知土陽生樣　國民新聞社の湖處子と申方は御本名を末兼八百吉君と申す、本社雲峯子と云ふのは未だ本名を判然と知らず○男子小說家の答を擧げよとの仰せ何れ考へ見む○東京中で青年を托すべき學校はとの御問ひ、御申越しの如く明治學院抔は宜しかるべし當地に學ばしめんとならば余程謹かなる所に托せざれば危うしそは青年者流の風俗甚だ宜しからればなり○將來我國の社會にて入用ならんと思はるゝ學課を指示するは甚し六かし人各其好む所の學を修めば何の學課にても用あるべし農學を修むるには駒場の農林學校か札幌の農學校が宜しく工業の方は帝國大學の工科が最も宜しかるべし○女子の名はしづ、つゆ、てい、たま、抔宜しからん人に依て好き嫌らひある故多く擧ぐも益なし○風俗文選と云ふ書は未だ活版に附したるを見ず古本屋に非れば賣り居るまじ代價贅捌處問ひ合せの上知らすべし。

●名古屋一女樣　漢詩を學ふには始め詩韻含英とか詩語粹金と云ふ樣な書によるのが宜しいと申す、格別脩傾の學び方なかるべし、始めの程は少し作り方を詩人に聞かれば分るまじ

●上州安中吉田たけ子樣　十七八歲と云へば先づ晩學なれば已れの好む所だけ修め得らるゝ私立の女學校に入る方宜しかるべし、私立校なれば英學と音樂だけ修め得らるべし

●神奈川八王子山本かれ子樣　美人三十二相を備ふるといふ事は俗說なり之は佛說にある事にて釋迦如來は三十二相八十種好を備へたりといふ事金剛經下卷の二十二又大藏一覽八卷の二十一丁又頭義五の十六又西京要三の十六等に見えたり然して其卅二相といふ相名の數は今忘れたり原書に就て一讀せば明瞭なるべし○不知庵先生は御本名を內田貢君と申す。

## 時事

### 築地救助會

米國公使館書記生赤坂病院長ホイトニー氏は、日々其近傍の貧民二百人に粥香の物を救助し、橫濱山手に開會中ある橫濱婦人慈善會は日々二十人を限り細民へ焚出しを施與し、或る學生は慷泣して麻布區民に訴ふるの演說を爲し、世の慈善家は皆な貧しきを救はんと心を苦しめ居る也、玆に築地にある外國の同胞も亦た我國民の爲に泣き、左の如き廣告文を配りて目下救助會の設立に盡力中のよし也、吾人は流涕に堪へずくれぐゝも之を感謝し參らする也、

築地救助會　米價の騰貴によりて府下の窮民の艱難益々甚たしきにより在京の外人は目下是等の貧民を救助するの必要を感じ築地救助會なるものを組織せられたり、最も從來赤坂にあるホイトッニー氏は近隣に住する人力車夫を救恤する事を務められしが去月九日築地五番館に於て救助會の設立に付て相談會有りし折同氏にも其力を併せ働かるゝやうになりかつミス、アルベツキ、ミス、フアニー、ベーリー、ミツセス、スヲルズの三氏を委員とし左の規約を議定せらる

第一內國傳道師の方々に依賴し京橋區內にある貧民の有樣等を觀察し切要の件々を委員に報告あるよう致す事、第二是等の貧民を救恤する方法は單に肉躰上の事のみに非すして從て靈魂上の暗瞑を照らす事に意を用ゆべき事、第三基督信者又は傳導婦等報告ありし貧者の家族を見舞ひこれを慰むる如き働をなすと、第四先つ第一着に京橋區よりこれを始むるも漸次區外に及ぼし得るに至らん事を務む、第五貧民中病者ある時は築地に於て救民醫院の設立あるまで赤坂ホイトニー氏方に於て施藥あるべし、第六委員必要と見止めたるの時集會を催す事あり、こは事業の進步を報告せんためと新事業の企てとに關する相談會の類なり。

總て同會の事業に贊成の意を表せらるゝ方々は州本應分の金圓其他の物を、築地十五番地エイチダブルユー、スヲルズ氏迄送られたし。

## 政海風針

長州は兎角利巧なり、自由派に結托して百年の長壽を爲さんとすると頗ぶる妙策に似たり、然れども此は別に不思議の術數にあらず勢ひ然らざるを得ざると也、陸奥氏は井上伯に、中島氏は伊藤伯に、末松氏は末廣氏に、後藤伯は板垣伯に、エレキの神速に通ずると當然の路にてある也、夫れ大勢大率ね決す、改進黨と薩黨とは今后果して何如にかする。

## 改進せよ

改進黨は最早長夜の眠を攪醒せざる可らず、長袖長舌は風雲を叱咤するに足らざる也、何んぞ其屑を去り垢を洗ひ、翩然九州の同志者に勇和するの氣象なきや。

## 山林必しも靜雅ならず

官立學校何んぞ不平の多きや、官立學校中に尤とも温和しと云ふ農林學校にてすら倚ほ如此し、吾人は其退校せられたるものに對し前田君と同様に涙を流す也、然れども只だ涙を流すとも何の効なし、若し不十分の事ありとせば須からく之を改良すべし、林學開祖の人を優待するの義ならば亦其道の元老院にてもあるべきこと也。

## 群集に於ける西洋人

人込の時、西洋人は日本人の遠慮する事をも構はずに爲すとあり、而して巡査などは日本人には容赦せぬとを西洋人には大目に見るとあり、之れ日本壯士が平素慷慨する所ろなり。サンマー氏は温厚の君子なり、イムブリー氏は淡泊なる學士なり、吾人は此の兩氏が近頃ろの不幸に出で遭はれたるを見て切に悲しむものなりと云へども、他の暴慢なる西洋人等は之によりて多少戒心せんとを祈るもの也、而して兩氏に對しては何如にも其不幸を慰さめ、吾が同胞の禮を失ふ至大なりしとを陳謝せずんばあらず。

## 多望快好

世は段々面白くなれり、知らぬ間に枝頭十分の春景色あるなり、高崎知事もお役御免になり、一平民も大臣となり、府縣郡制も發布になれり。

## 樹を植ゆ、人を植ゆ

十年の計を爲すには樹を植え、百年の計を爲すには人を植えよ、農商務、文部二省の役目は共に長年月を要するの仕事にてある也、然るに此二省はいつも頻々長官を變へて種の温たまる暇なし、日本政府の培養は何如なる方法ぞや。

# 廢娼記事

●東京廢娼會　同會より發したる會報左の如し、

(一)去十七日定めの如く厚生舘に東京廢娼會年會相開き委員の起草したる會則案に操り辨議確定せるもの如左、

東京廢娼會々則

〇一、名稱。本會は東京廢娼會と稱す〇二、目的。本會は公認娼妓を廢せんとを期す〇三、會員。本會の目的を達せんが爲め力を盡す者を會員とし之を贊成する者を贊成員とす〇四、會員義務。會員は毎年一圓以上の會費を修め年會に列し委員を撰擧し且つ常に本會の目的を達せんとを心掛くべし〇五、入會手續。入會を望む者は會員二名以上の紹介を以て申込み委員會の承認を經るとを要す〇六、委員會。委員十五名を以て委員會を組織す又會員は委員會に列して自説を陳ぶるとを得但し委員會議員の數に加はるを得ず〇七、贊成員。贊成員は出金の義務なし但し應分の補助を爲すとを得る者とす〇八、會期。毎年五月年會を開き委員を改撰し事務を報告し運動事業の大綱を議決す、委員會の所望若くは會員三十名以上の所望に依りて臨時會を開くとを得、臨時會は其決議に依り年會同樣の事務を施行するとを得。

(二)同日委員十五名を撰擧す當撰者如左、但し當人の諾否問合中。飯野吉三郎、岩本善治、伴直之助、徳富猪一郎、渡瀬寅次郎、津田仙、根本正、中濱東一郎、植村正久、黒岩周六、小島宮吾、三宅雄二郎、島田三郎、森林太郎、

(三)日本全國各地へ廢娼會及同主義の一個人等連合同盟し日本廢娼同盟會を組織し、東京廢娼會も之に加入、來る廿四日夜六時より飯田町明治女學校に其年會を催ふし、同廿六七の兩夜は厚生舘に於て廢娼大演説會相開き候。右年會には各地廢娼會の代人追々上京中にて、府下に於ては婦人矯風會、婦人白標倶樂部、廢娼會運動の景況報告、並に廢娼運動今後打合等仕る筈に付、可成來會ありたく候。

## 女報

〇印刷局の女工　大藏省印刷局にては從來紙の計算郵便切手の切拔等に女を使用せしも試驗の爲め女工を以て印刷に從事せしめたるに仕事の綿密にして經濟上有益なるに付き行々は男工を廢して一切女工を用ふるとに改めらるゝ目的なりと。

〇婦人の慈善　靑木外務大臣の夫人及び東京農林學校教授松野礀氏の夫人は麴町區内の貧民にて一圓以下の借家に住し其日の生計に苦む者四十名に白米壹圓分へ味噌を添へて施與されたる由。

〇横濱婦人慈善會　は兼て貧民救助に盡力せしが近來一層窮民の増加せるを以て山手居留地近傍に家屋を借受け去る十五日より毎日二十人宛へ炊出しを施與し居らるゝ由なるが同地二百番舘リンスレーキ及二百廿一番女教師パンペテンスミ兩氏は大贊成にて金圓を寄附したりと云ふ。

〇女生徒の上京　京都府尋常師範學校長加藤正矩氏外三名附添同校女子部生徒三十餘名は此度出京の上文部省へ出頭して榎本文部大臣辻同次官へ面接したる由。

〇女傑傳　シカゴなるドクトル、チチソン氏は嘗て七百五十弗の賞金を懸けて女傑の傳を募りぬ、募りに應ぜし者多き内にミロン夫人が賞を得たりと、其女傑は名をフレッドリカ、ブリーマーと云ふ。

〇女小説家　アンナ、キヤザリーン、グリーンは十歳許の時より文をよくし他の小女と共に小説を著はしゝといふ。

〇メッド夫人　は過る十四年間インディアナのブルーミングトン市公立學校の取締を爲し名聲赫々たり、今痾の爲め其の務めを止むるとて同校の者一同惜み居る由。

〇アッケルマン孃　去月中旬頃はサイアムに在りて其王公貴人の優待を蒙り英米諸國の宣教師の住居を借りて度々集りを爲せしとの報あり。

〇カルチス夫人　ニウヨークのカルチス夫人は貧民の爲めに音樂學校を起し、謝金を出し得る者には少しづゝ出さしめ貧しき者には無謝儀にて教授するといふ三年の後は音樂に依て生活し得べし貧民の爲めに賀すべき事なり。

## 週報

〇官令　十六日法律第三十四號にて兌換銀行券條例中の件勅令第七十八號にて監軍部條例中改正の件同七十九號にて要塞砲兵配備の件を裁可公布せらる●十七日法律第三十五號を以て府縣制同第三十六號を以て郡制を裁可公布せらる●十九日勅令第八十號を以て日本帝國領事規則を裁可公布せられ七月一日より施行を命ぜらる同八十一號にて大隊區司令部條例中改正の件同八十二號にて陸軍管區表中改正の件を裁可公布せらる。

〇宮廷　十六日天皇陛下第三回内國勸業博覽會附屬臨時競馬會へ行幸あらせられたり●十七日宮中に於て親任式を行はせらる●二十二日皇后陛下上野公園内美術展覽會並に日本赤十字社總會へ行啓あらせられたり。

〇政治　十三日山縣、西鄉、山田、松方、靑木の五大臣は内閣に參集せり同日大隈伯は愈々快方に向ひたるを以て御禮の爲參内せり●十五日山縣、山田兩大臣は登閣せり●十七日内閣臨時會議に山縣、西鄉、松方、靑木の四大臣參集せり同日西鄉從道内務大臣に芳川顯正文部大臣に樺山資紀海軍大臣に陸奥宗光農商務大臣に任ぜられたり●十七日淺草松葉舘に於て三派合同の懇親會あり●十九日蜂須賀茂韶氏東京府知事に任ぜらる。

〇外交　十二日佛伊獨三公使は受公使舘に集會したり●十五日佛國公使は内外の貴紳を聘して園遊會を催せり。

〇叢報　十五日田口卯吉氏南洋に向て出帆せり●十七日改進黨の名士沼間守一氏逝けり

# 東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の教員孰れも熟達善良なり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地 **東洋英和女學校**

## 廣告

## ●正教新報

五月十五日發行第貳百貳十七號○一冊郵税共金四錢五厘

**論說** 政教相關の理(序論)○教會法を論ず(續)●特別寄書○祈禱は果して有名無實なる乎(續)●寄書○忠愛論を讀む **雜錄** 使徒の信經○人類道德の完全は何くにあるや○女誡集要(續)○寄蹟類集(續)●詞叢●文苑○舊約百詠(五十二篇至五十四篇)○本會聖堂のあらまし落成したりときゝて鄙にすまへる小子さへうれしさ限りなければ祝のこころにてよめる○返歌○復活大祭をいはひてよめる○新築聖堂の寫眞を見て御教の起りと今盛なるさまとを感じてよめる○其他數首●漫筆○國民の友孔教論中の一節に付て○復活大祭演說○撰擧騷擾と道德力○感する所ありて教會諸兄姉に一言す○公會小言 **雜報** ●日本正教會記事○機密承領表○聖堂開始の祝辭其他十數件

**發行所** 神田區駿河臺北甲賀町十三番地 **愛々社**

## 國文

每月一回十五日發行 第一號五月廿七日發行

定價金五錢 郵税五厘

國文は國家を保つ一大要基なり苟も國民たるもの國文を知らざれは國民の欠格あり國民よして國家を保つ要基を欠きたらんよは必ず國光を發輝し獨立を鞏固にすること能はずいざこれを汝よ示さん汝讀まば直ちよ國文を解することをえ國文を書くことを得べしあゝ汝國民たらばよく國文を解し國文を書け

### 編輯員

監督 久米幹文

贊助 小中村義象

主事 生田目經德

助 落合直文

**發行所** 東京市神田中猿樂町十五番地 **國語傳習所**

本所愈盛大ニ赴キタルヲ以テ **女子部ヲ獨立** セシムルニ付志願ノ女子ハ五月卅日迄ニ申出ベシ(授業ハ火木土三時半ヨリ五時半迄、束脩金五拾錢月謝校費共四十錢)

學科

- 日本普通文法、美辭學、作文詠歌
- 國史 講義(紫式部日記、十六夜日記、枕草紙、源氏物語ノ類)

**講義錄** 第一、第二出版、第三五月卅日發兌、在外生志願者ハ男女共ニ此際申込ベシ

東京府廳特許

麹町區飯田町五丁目 私立 **國文國史講習所**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

新刊書發賣廣告

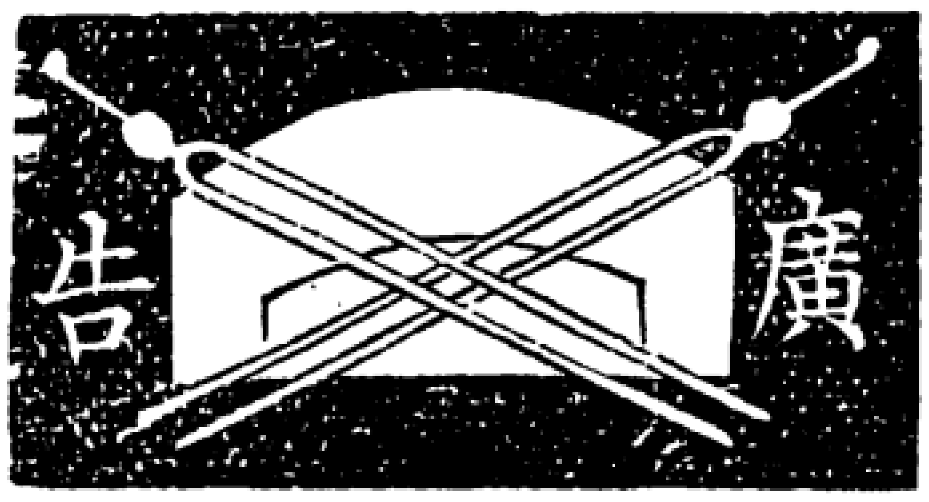
文學士上田萬年先生校閲
立花鉄三郎先生　芳賀矢一先生　同編

# 國文學讀本

師範學校中學校教科用
洋裝極美本全一冊　紙數四百
八十頁餘　實價金七拾五錢也
郵税十錢書留料六錢

近來國文を編纂せる著書續々世にいづと雖も未だ編纂法の斬新にして世間の需用を滿足すべき者なきが如し本書は此欠點を補はんと試る者にして(一)國文學の全跡に就きて古今の大家を精選し(二)時代を逐て之を排列し一讀して國文の變遷を了せしめ(三)作者毎に畧傳を付して其文采人物を想はしめ(四)卷尾に註釋を添て文法字句を解説し(五)和歌の高尚なるもの及敎育の主義に背かざる戲文小説を併載して萬緑中に數點の紅葩を插み加之(六)卷首には文學を總論し國文學の沿革を畧敍したるの緒論をも加へたれば中等教育の敎科書に適當したるのみならず苟も國文學に志あらん人は一讀すべき價値ある者なり印刷の鮮明にして紙質の精良あるが如きは江湖諸君購讀の上之を知り給へ

發兌元　東京神田區裏神保町九番地　富山房書店




御櫛笄品々
儀式用

鼈甲珊瑚蒔繪金銀

○御櫛笄簪るゐ
○玉並根掛るゐ
○御櫛笄簪るゐ
○御簪指輪るゐ

鼈甲類珊瑚珠問屋　日本橋區堺町通ふきや町　小川專助

注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麹町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

| 發兌 | |
|---|---|
| 五月。 | 三日　十日　十七日　廿四日　三十一日 |
| 六月。 | 七日　十四日　廿一日　廿八日 |
| 四月。 | 五日　十二日　十九日　廿六日 |

| 定價 | |
|---|---|
| 一冊。 | 六錢　郵税。五厘　(但府内無郵税) |
| 十冊。 | 五十八錢郵税。五錢　(同前) |
| 半年分 | 一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢 |
| 一年分 | 二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢 |

| 廣告 | | |
|---|---|---|
| 一行　一回 | (廿七字詰) | 前金拾錢 |
| 同 | 三回以上 | 一　割引 |
| 同 | 六回以上 | 二　割引 |

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

明治二十三年五月廿三日印刷
明治二十三年五月廿四日出版

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治
印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

# 新刊書發賣廣告

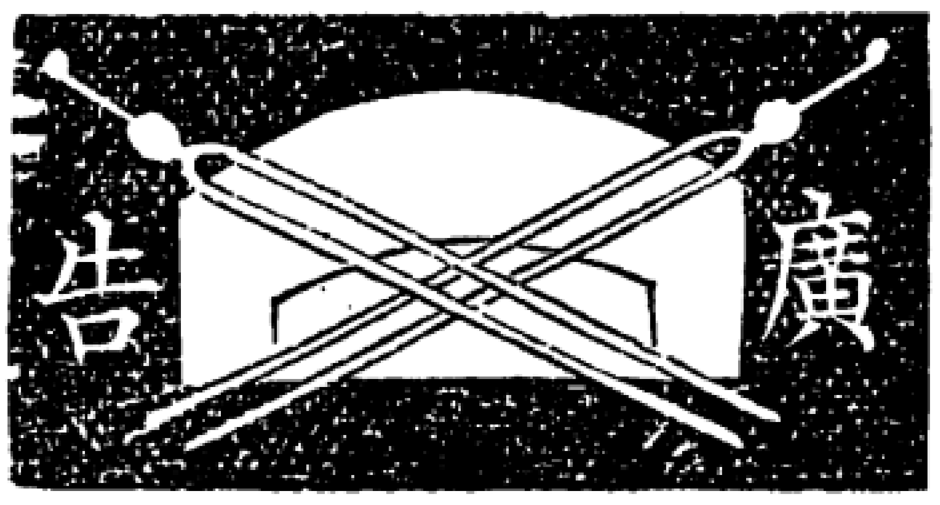
文學士上田萬年先生校閲
立花鉄三郎先生　芳賀矢一先生　同編

## 國文學讀本

師範學校中學校教科用
洋裝極美本全一冊　紙數四百八十頁餘　實價金七拾五錢也
郵税十錢書留料六錢

近來國文を編纂せる著書續々世にいづと雖も未だ編纂法の斬新にして世間の需用を滿足すべき者あるが如し本書は此欠點を補はんと試る者にして(一)國文學の全躰に就きて古今の大家を精選し(二)時代を逐て之を排列し一讀して國文の變遷を了せしめ(三)作者每に畧傳を付して其文采人物を想はしめ(四)卷尾に註釋を添て文法字句を解說し(五)和歌の高尙なるもの及敎育の主義に背かざる戯文小說を併載して萬綠中に數點の紅葩を插み加之(六)卷首には文學を總論し國文學の沿革を畧敘したるの緒論をも加へたれば中等敎育の敎科書に適當したるのみならず苟も國文學に志あらん人は一讀すべき價値ある者なり印刷の鮮明にして紙質の精良なるが如きは江湖諸君購讀の上之を知り給へ

發兌元　東京神田區裏神保町九番地　富山房書店


鼈甲珊瑚蒔繪金銀

○御櫛笄簪るゐ
○玉並根掛るゐ
○御櫛笄簪るゐ
○御簪指輪るゐ

御儀式用　櫛笄品々

鼈甲類　珊瑚珠　問屋　日本橋區堺町通ふきや町　小川專助


### 注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麹町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

### 發兌

五月。三日　十日　十七日　廿四日　三十一日
六月。七日　十四日　廿一日　廿八日
四月。五日　十二日　十九日　廿六日

### 定價

一冊。六錢　郵税。五厘　(但府內無郵税)
十冊。五十八錢郵税。五錢　(同前)
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分　二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

### 廣告

一行　一回　(廿七字詰)　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし


WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

明治二十三年五月廿三日印刷
明治二十三年五月廿四日出版

東京麹町區富士見町二丁目一番地
發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐




Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY